

令和4年度 市政執行方針 大綱

令和4年度は、先行きの不透明な新型コロナウイルス感染症に対し、国の動向や感染状況、経済的な影響を注視する中で、引き続き、市民の暮らしを守り、感染症対策と経済活動の両立に向けた取組を機動的かつ弾力的に推進していくこととする。

併せて、人口減少、少子高齢化等に起因する諸課題への対応はもとより、コロナ禍を契機とした社会・経済情勢の変化や生活様式の多様化、安全で快適な生活環境を求めるニーズの高まりを的確に捉え、未来に向けた持続可能なまちづくりへ着実に歩みを進めていくため、SDGsの視点を踏まえる中で、「こうふ未来創り重点戦略プロジェクトNEXT」における施策の更なる充実・強化を図るなど、「第六次甲府市総合計画」の都市像の実現に向けた取組を推進していくこととする。

以上を踏まえ、令和4年度市政執行方針（大綱）を次のとおり定める。

1 いきいきと輝く人を育むまちをつくる（人）

子どもを安心して産み育て、子どものたくましい成長を応援するため、子育て世代の負担の軽減をはじめ、様々な家庭環境や特性を持つ子どもたちに寄り添った相談支援体制の充実を図るとともに、子育てを応援する多分野の担い手によるプラットフォームを活用した子育て施策の一層の推進、更には、デジタル時代にふさわしい学校や家庭でのICTを活用した質の高い教育の振興や、国際感覚豊かな人材の育成など、すべての子どもたちを社会全体で支える機運の醸成や環境づくりを推進する。

また、オリンピック・パラリンピックによるスポーツ振興や多様性を認め合う機運の高まりを捉え、生涯スポーツの活動拠点である緑が丘スポーツ公園の再整備による健康・いきがづくりの充実や、日本女性会議を契機とした男女協働参画意識を一層高めるとともに、文化財の保存・活用を通じて、開府500年記念事業により育まれた郷土愛の更なる醸成に取り組むなど、様々な価値観を理解・尊重し、健やかで心豊かな人を育むまちづくりを進める。

2 魅力があふれ人が集う活力あるまちをつくる（活力）

ジュエリーや農産物など本市の地場産業の強みを活かし、ふるさと納税の促進など販路拡大やプロモーションの強化により、需要の拡大や消費喚起を図るとともに、新規就農の促進等による農業振興や将来を見据えた企業立地の促進に加え、多様な人材の活躍を支援するなど、地域に新たな活力を生み出

報告：第14号

し、本市経済の持続的な発展を図る。

また、コロナ禍での取組を今後の成長につなげるため、日本遺産 御嶽昇仙峡をはじめ、本市や近隣自治体が有する観光資源を活用した効果的な事業の展開を図るとともに、集客イベントの更なる魅力の向上や、甲府城南側エリアの歴史・文化が感じられる空間の整備や民間活力の導入による賑わいの創出、空き店舗を活用した公民連携による中心市街地の振興や、地方への関心の高まりを捉えた移住支援策の推進に加え、国内外への積極的な魅力の発信など、交流人口等の増加や移住・定住の促進を図り、交流と賑わいのあるまちづくりを進める。

3 安全で安心して健やかに暮らせるまちをつくる（暮らし）

激甚化・頻発化する災害に備え、市民一人一人の防災意識の高揚や適切な避難行動を促進し、地域における防災力の向上を図るなど、災害時における被害の軽減と市民生活や都市機能の早期回復につなげるため、国土強靱化に向けた取組を計画的に推進するとともに、関係機関との連携により、消費者被害の未然防止や救済などの相談体制の充実をはじめ、高齢者の交通事故の抑制や子ども通学路の安全確保、防犯意識の啓発を図るなど、安全・安心なまちづくりを推進する。

また、新型コロナウイルス感染症への対応により培われた経験や専門的な知識を活かし、保健所を中心とした健康危機管理対策を講ずるとともに、健康都市の実現に向けた市民の健康づくりを後押しする取組の推進をはじめ、日常生活で心に問題を抱える人への支援や、高齢者の暮らしを支える取組の充実に加え、障がい者への理解を深め地域で支え合う共生社会の実現に向けた取組の推進など、誰もが住み慣れた地域で健やかに暮らし続けることができるまちづくりを推進する。

4 自然と都市機能が調和する快適なまちをつくる（環境）

温室効果ガスの削減などグリーン社会への歩みを進めるため、新たな環境基本計画による「ゼロカーボンシティ」に向けた取組などの推進や、環境問題への意識を醸成する教育等の充実を図るとともに、まちなかの賑わいの創出や交流・子育ての拠点となる遊亀公園及び附属動物園の一体的な整備、動物の適正飼養による、人と動物が共生できる環境づくりに取り組むなど、豊かな自然と調和した潤いのある快適な生活環境の向上に向けた取組を進める。

また、リニア中央新幹線の開業を見据える中で、立地適正化計画に基づく公共交通のネットワークや各地域の特性を最大限に活かした住みよい居住環境の形成など、市民生活の利便性を高め、市域全体の活性化につながる都市基盤

報告：第14号

を整備し、持続可能で住みよいまちづくりを推進する。

5 基本構想の推進

地域の特色やニーズを的確に捉える中で、多様な主体が地域課題等を共有し、解決に向けて取り組む協働のまちづくりを進めるとともに、地方への関心の高まりや、デジタル技術を活用した柔軟な働き方の広がりなど、新型コロナウイルス感染症による価値観や社会の変容に応じた戦略的なプロモーションを展開する。

また、人口減少や少子高齢化による人材の不足や社会保障関係費の増加に加え、感染症による中長期的な市民生活等への社会的な影響など、本市の現状等を踏まえる中で、SDGsによる共通の理念を取り入れ、将来につなげる効率的で効果的な業務の展開や人材の育成を図るとともに、公民が連携・協働した取組や、自治体間の連携による地域の個性を活かした広域的な事業などを推進し、持続可能な行財政運営に取り組む。

令和4年度 予算編成方針

1 本市の財政状況と今後の見通し

令和2年度決算における本市の財政状況については、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に市税収入が減額となる中、公債費等の経常的経費が増額となり、財政構造の弾力性を示す指標である経常収支比率は、改善は見られたものの94.9%と、財政構造は依然として硬直化した状態にあることから、市独自の施策の実施や新たな行政課題への取組に対して、弾力的に対応を図ることが厳しい状況となっている。

今後についても、歳入において、市税収入はコロナ禍以前の状態に戻るには、数年を要する見込みであり、一方で歳出については、コロナ禍を契機に新たな行政需要が高まりつつある中で、人件費や公債費が増加傾向で推移し、扶助費等の社会保障関係費についても増額が見込まれるなど、本市の財政状況については、極めて厳しい状況が続く見通しである。

2 予算編成について

令和4年度はこのように極めて厳しい財政見通しであるが、引き続き新型コロナウイルス感染症への対応については、感染状況を注視しながら感染拡大防止対策や地域経済活動の回復に向けた支援に取り組む。

加えて、コロナ禍により顕在化した新たな課題を的確に捉え、本市が持続可能な都市として成長・発展していくため、SDGsの視点を取り入れる中で、国の「経済財政運営と改革の基本方針2021」を踏まえつつ、ポストコロナに向けた事業に積極的に取り組むとともに、「第六次甲府市総合計画」をはじめ、「こうふ未来創り重点戦略プロジェクトNEXT」に掲げる施策・事業の着実な推進を図る。

こうした取組を具現化するため、限りある財源を効果的、効率的に活用する必要があることから、各部局の主体性と自律性による自主財源の確保及びスクラップアンドビルドの徹底のもと、以下の基本事項及び個別事項を踏まえた予算編成とする。

(基本事項)

- (1) 既に概算要求を行った主要事業を除く一般事業等については、各部局に提示する一般財源計画額を厳守すること。
- (2) 全ての事業について、費用対効果が低いものについては従来の慣例等に捉われることなく、廃止・縮小などの見直しを図ること。
- (3) 新規事業又は既存事業の拡充については、新たな財源の確保又は既存事業を廃止・縮小することにより財源を確保し、要求すること。

(個別事項)

(1) 歳入関係

- ① 市税収入については、制度改正や経済情勢等を見極めながら、過去の実績を十分検証する中で、税負担の公平を期すため、課税客体の適正な把握を行うとともに、収納率の向上を図り、一般財源を確保すること。
- ② 国・県支出金については、国・県の予算編成の動向や制度改正、コロナ関連施策における対応等の情報収集を図るとともに、企画財政課が作成する「市町村への国県支出金の概要」を参考に、積極的な財源の確保に努めること。
また、各種団体による助成制度についても情報収集を行い、積極的に活用すること。
- ③ 使用料及び手数料等の自主財源については、受益者負担の観点から、適正に財源を確保すること。
- ④ 財産収入については、「甲府市資産（土地・建物）利活用基本方針」に基づき、公有地等の未利用資産の売却や貸付けを行い、積極的に財源を確保すること。
- ⑤ ふるさと納税、クラウドファンディング、広告収入のみならず、あらゆる可能性を検討し、積極的に収入の増加に取り組み、財源を確保すること。
- ⑥ 市債については、後年度の財政負担を伴うものであることから、事業の優先度や効果等について十分に検討し、最小限の活用とすること。

(2) 歳出関係

- ① 国・県の制度改正に伴う補助金や負担金の廃止、又は縮小された事業の継続については、市単独事業への振替は原則として行わないこと。
- ② 社会保障関係費については、これまでの実績などを踏まえ、実情の把握を徹底する中で積算を行い、経費を抑制すること。
- ③ これまでの感染症関連対策に係る事業等については、効果を検証し真に必要な事業等に係る経費を要求すること。
- ④ 公共施設等の整備については、「甲府市公共施設等総合管理計画」及び「甲府市公共施設等再配置計画」の基本的な方針との整合性を図ること。また、

経費の積算にあたっては、過剰な施設整備とならないよう十分に精査を行い、経費を抑制すること。

- ⑤ 債務負担行為については、後年度の財政負担を伴うものであることから、その増加は財政硬直化の要因ともなるため、施策上真に必要なものに限り設定すること。
- ⑥ 企業会計を含む特別会計の繰入金については、企画財政課と協議を行う中で積算するとともに、独立採算の原則に立ち、特別会計内の自助努力により抑制を図ること。
- ⑦ 主要事業においては、概算にて要求を終えているが、国の動向等により、要求額に追加等の必要性が生じた場合は、企画財政課と協議を行うこと。
- ⑧ 「こうふ未来創り重点戦略プロジェクト N E X T」に掲げる施策・事業について、公民連携課と協議を行うこと。

以 上

令和3年度 全国学力・学習状況調査

甲府市における調査結果のポイント

..... も く じ

1	調査の本市の概要	P 1
2	教科に関する調査の本市の結果について	P 1
3	質問紙調査の本市の結果について	P 13
4	資料1	P 29
5	資料2	P 34

報告：第15号

1 調査の本市の概要

(1) 実施日 令和3年5月27日(木)

(2) 調査内容

○実施学年 小学校第6学年，中学校第3学年

○調査内容

[教科に関する調査]

小学校・・・国語，算数 中学校・・・国語，数学

◇出題内容

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な問題解決のための構想を立て，実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では，上記①と②を一体的に問う。出題形式は，国語及び算数・数学においては，記述式の問題を一定割合で導入する。

[生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査]

◇児童生徒に対する調査

・学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査

◇学校に対する調査

・指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(3) 参加状況

校種	参加学校数	参加学年・参加人数
小学校	24校	6年生・1329人
中学校	11校1分校	3年生・1259人

※小学校1校不実施

2 教科に関する調査の本市の結果について

(1) 全体の結果 【平均正答率で見た甲府市の状況：全国・山梨県との比較】

		小学校(6年生)		中学校(3年生)	
		国語	算数	国語	数学
全国		64.7	70.2	64.6	57.2
山梨県		63	68	66	57
甲府市	国との比較	△	△	○	○
	県との比較	○	○	○	○

報告：第 15 号

※平成 29 年度から、県および市・各学校等の平均正答率は整数で発表されることとなった

※表の見方：○は同じかあるいは上回っている、△は下回っている

◇全体の概要

○平成 31 年度から従来の A 問題・B 問題が一体的に問われることになった。この形式での調査は今回で 2 回目になる。

教科に関する調査の平均正答率は、小学校・中学校ともすべての教科(国語・算数・数学)において、全国と比べて -2.2% から +1.4% の範囲内(一昨年度 -2.8% から +1.2%)にある。 ※昨年度は中止

〔小学校〕

・国語、算数とも、全国平均正答率を下回っているが、県平均正答率とは同程度、もしくは上回っている。

〔中学校〕

・国語・数学ともに全国平均正答率及び県平均正答率より同程度、もしくは上回っている。

(2)各教科の結果

■小学校国語

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上高いもの】

該当なし

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の 一 部ウを、漢字を使って書き直す (つみ重ね)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6年 言葉の 特徴や 使い方 に関する 事項	
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の 一 部オで～～部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	3・4年 言葉の 特徴や 使い方 に関する 事項	R2 3 二(1) R2 3 二(2) 【不実施】

報告：第 15 号

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける	5・6年 読むこと	H27B 2 三
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	3・4年 読むこと	H27B 2 一ア H27B 2 一イ
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の 一 部オで～～部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	3・4年 言葉の特徴や使い方に関する事項	R2 3 二(1) R2 3 二(2) 【不実施】

【本市の傾向・課題】

- 全国及び県の平均正答率とほぼ同等の結果となった。
- 記述式の設問や、短答式の言葉の使い方に関する設問において、全国及び県と同様に無解答率が高い傾向が見られた。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」(知識及び技能)に関する設問の正答率が低い。
 - ・「文の中で漢字を使う」設問については、3問中2問(「転がる」・「原因」)は全国平均正答率を上回り、前回に比べ改善が見られるが、表に示した設問(「積み」)については全国・県平均を下回り、正答率が低く、課題が残る。
 - ・文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がある。特に表に示した設問(「すぐに」が修飾する言葉)については全国・県平均を下回り、正答率が低い。
- 「読むこと」(思考力、判断力、表現力等)に関する設問の正答率が低い。
 - ・目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。
 - ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。

【改善のための方策】

○文や文章の中で、漢字を正しく使う指導の充実

- ・漢字の学習指導に当たっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、本設問のように、自分の書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるようにする指導の工夫が必要である。また、必要に応じて、日常生活と結びつけながら、漢字を使って文や文章を書く機会を設定することが大切である。

○文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉える指導の充実

- ・主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることを、授業だけでなく日常生活と結びつけながら気付くことができるように指導する。特に、[思考力、判断力、表現力等]の「B書くこと」の「推敲」に関する指導事項などとの関連を図り、指導の効果を高めていくことが考えられる。自分が書いた文章を読み返す際に、読み手の立場に立って、言葉の使い方を確認する習慣を身に付けるようにしていくことが重要である。

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける指導の充実

- ・図表やグラフなどを含む文章（説明文）を読む際には、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにし、文章と図表などとの関係を捉えて読むことが重要である。その上で、文章構成を表にまとめるなどの活動を通して、必要な情報を結び付けて内容を理解することができるようにしていくことが重要である。

○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する指導の充実

- ・「要約する」とは、文章全体の内容を正確に把握した上で、段落の要点と要点をつないで元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。要点とは、段落の中で筆者が述べようとしている主要な内容のことである。要約する目的を意識し、各段落を構成するそれぞれの文の役割を捉え、その中から内容の中心となる語や文を選び要点をまとめ、それをつないで要約することができるようにすることが重要である。その際、要約の分量なども考えて指導することが大切である。

報告：第 15 号

■小学校算数

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上高いもの】

該当なし

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1(3)	アとイの二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味について理解している	5年 変化と関係	H25A ⁴ H25B ⁴ (1) H26A ⁴ (2) H28A ⁴ H30A ⁴ (2) H31 ⁴ (3)
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	5年 図形	H19A ⁵ (2) H21A ⁶ H24A ⁵ (2) H28A ⁵
3(4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる	5年 データの活用	H19B ³ (3) H22B ³ (1) H30B ³ (2)
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	4年 数と計算	H20A ¹ (6) H20A ⁴ (2) H22A ¹ (5) H22A ² (1) H25A ¹ (4) H26A ¹ (4) H29A ² (4)

【正答率が 40%に満たないもの】

該当なし

【本市の傾向・課題】

- 全国及び県の平均正答率とほぼ同等の結果となった。また、全国及び県と同様に、無解答率が高い設問もある。
- 「変化と関係」の領域では、「速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること」に課題がある。「速さを求める除法の式と商の意味を理解すること」に関する問題での正答率が低い。
- 「図形」の領域では、「三角形の面積の計算による求め方について理解すること」に

報告：第15号

課題がある。「三角形の底辺と高さを正しく捉え、面積の求め方について理解していること」に関する問題での正答率が低い。

- 「データの活用」の領域では、「帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること」に課題がある。「帯グラフの複数のデータから項目間の違いに着目し、データの特徴や傾向を読み取ること」に関する問題での正答率が低い。
- 「数と計算」の領域では、「ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること」に課題がある。「小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みに着目して理解し、考え表現すること」に関する問題での正答率が低い。

【改善のための方策】

○「変化と関係」に関する学習指導の充実

- ・日常生活の問題を解決するために、具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表すことができるよう指導していく。
- ・どちらが速いか比べる際には、単位量について道のり又は時間で比べることを指導していく。その場合、図を用いるなどして、「1分間当たりに進む道のりや1m当たりにかかる時間」などについて考えていくことが大切である。

○「図形」に関する学習指導の充実

- ・公式を暗記させることが目的ではなく、なぜその公式が成り立つのか考える時間を充実させていく。
- ・図形の面積を求める学習では、図形のどこの長さに着目する必要があるのか、日々の学習の中で、意識して取り組むことが大切である。

○「データの活用」に関する学習指導の充実

- ・日々の学習から、このグラフは何を表したもののなのか、児童が考える機会をもつことが大切である。
- ・データの特徴や傾向を読み取る力を育成するため、グラフの数値を漠然と捉えるのではなく、数値に基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知る場面を作る。さらに、その方法で考察していくことができるようにすることが大切である。

○「数と計算」に関する学習指導の充実

- ・数量の関係を正しく捉え、立式したり、計算結果を基に問題場면을振り返ったりすることができるようにする。
- ・商が1より大きい場合だけでなく、商が1より小さい場合の除法についても、商の意味を考えることができるようにすることが大切である。
- ・計算結果について、日常生活の場面に即して判断できるようにすることが大切である。

報告：第15号

■中学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1年 話すこと・聞くこと	
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	2年 書くこと	
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う	2年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

該当なし

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2年 書くこと	
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	1年 読むこと	

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、多くの設問において全国平均を上回り、特に「話すこと・聞くこと」の領域では優れた成果を残している。
- 課題としては、文章を読み、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできているが、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つことである。

報告：第 15 号

【改善のための方策】

○読み手の立場に立って文章を整える

- ・目的や意図に応じて、読みやすく、しかも分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整える必要がある。その際、表記や語句の用法、表現の仕方や効果などを確かめるように指導することが大切である。

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする

- ・文学的な文章を読んで自分の考えを持つためには、「文章の構造と内容の把握」や「精査と解釈」の学習過程を通して、理解したことを他者（友達や教師）に説明したり、他者の考えやその根拠を知ったりするように指導する必要がある。その上で、改めて自分がその文章をどのように捉えて解釈したのかを振り返ることで、自分の考えをより確かなものにするように指導することが大切である。

○事象や行為などを表す多様な語句について理解する

- ・事象や行為などを表す多様な語句については、生活の中の様々な場面や状況に応じて、適切に使うことができるように指導することが大切である。その際、辞書を活用して似た意味を持つ語句を調べたり、複数の語句を比べてどれが最もふさわしい表現かを検討したりすることも効果的である。

■中学校数学

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
4	経過した時間と陰の長さの関係を「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	1年 関数	H26A9 H29A9
9(1)	四角形 A B C E が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になるための理由を説明することができる	2年 図形	

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上低いもの】

該当なし

報告：第 15 号

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2年 数と式	
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	1年 関数	H25B ³ (2) H29B ³ (2)
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性和意味を理解している	1年 資料の活用	
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	1年 資料の活用	H29B ⁵ (3)
9(3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	2年 図形	

【本市の傾向・課題】

- 全国平均正答率とほぼ同等の結果となっている。「関数の意味を理解している」や「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる」などでは、全国の正答率を上回っている。
- 多くの設問で無解答率が全国より低く、粘り強く取り組む姿勢が見受けられる。しかし、「資料と活用」の領域において正答率が40%を下回っていることが課題である。

報告：第15号

【改善のための方策】

○基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る指導の充実

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るため、学習した内容の意味の理解や実生活との関連を大切にしながら、生徒の実態に即したきめ細かな指導を繰り返し行う。

○関数・資料の活用の充実

- ・与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができている。日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することには引き続き課題がある。日常生活における問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフの中から用いるものを明確にするとともに、その用い方を適切に表して問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。
- ・与えられたデータから中央値を求めることはできており、改善の傾向は見られる。2つの分布の傾向を比べる際の相対度数の必要性と意味の理解に課題がある。相対度数の必要性や意味を理解するために、大きさの異なる2つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較する活動を充実することが大切である。

報告：第 15 号

(3) 無解答率について

校種ごと、教科ごとに無解答率をまとめると次の通りである。

＜無解答率が全国よりも高い設問の数＞

※全国よりも無解答率が高い設問の数／全設問数

全国より無回答率が高かった設問数				
小学校	H31 年度	国語	算数	
		11 問／14 問中	2 問／14 問中	
	R3 年度	国語	算数	
		8 問／14 問中	2 問／16 問中	
中学校	H31 年度	国語	数学	英語
		2 問／10 問中	1 問／16 問中	2 問／21 問中
	R3 年度	国語	数学	
		3 問／14 問中	2 問／16 問中	

【本市の傾向と課題】

○一昨年度との比較の視点から（昨年度は不実施）

- ・前回、小学校国語で無解答率が全国平均より高かった設問数は 78%と多かったが、今回は 57%であった。前回に比べて粘り強く解答した様子がうかがえる。
- ・算数、数学は前回に引き続き、最後まで粘り強く解答した様子がうかがえる。

○全国との比較の視点から

- ・他教科に比べて、小学校国語で無解答率が全国平均より高い設問が多いが、ほとんどが 1.0 ポイント未満での差であった。小学校では最大で 1.6 ポイント、無解答率が全国平均より高かった。
- ・中学校は、ほとんどの設問で無解答率が全国平均より低い。全国との差は、中学校で最大 1.6 ポイント無解答率が高かった。粘り強く解答した様子がうかがえる。

○無解答率が特に高かった設問から

- ・小学校では、国語において無解答率が 10%を超えている設問が 1 問あり、短答式の設問であった。算数については無解答率が 10%を超えている設問はなかった。
- ・中学校では、国語において無解答率が 10%を超えている設問が 1 問、数学で 6 問であった。7 問中 5 問が記述式。残りの 2 問が短答式の設問であった。

【改善のための方策】

- ・中学校の数学で無解答率が高い設問が多かったが、どの教科も記述式が目立つ。主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点に立ち、「自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導」「考えを引き出したり思考を深めたりする指導」「適切にノートをとるなど、学習方法に関する指導」をすすめることが無解答率を下げることに有効である。また、甲府市で力を入れている「甲府スタイルの授業づくり」の「見通しと振り返り」「ノート指導と板書」「動き出したくなる課題設定」においても、なお一層の工夫と充実を図る必要がある。

報告：第15号

平成31年度 各種調査「結果と授業改善のポイント」資料より（山梨県教育庁義務教育課）
令和3年度 各種調査「授業改善のPoint' 21」資料より（山梨県総合教育センター）

調査結果を踏まえた授業改善の取組

※まずは、先生方が調査問題を解きましょう。問題を解いた後には・・・。

- ①分類の各項目について結果を見ます。
- ②正答数分布グラフの分布の形状から、児童生徒の解答状況を把握します。

(1) 課題のある設問に着目する

- ③全国平均や県平均との差が大きい設問（5ポイント以上差が開いているもの）、正答率の低い設問、無解答率の高い設問に着目します。

(2) 反応率の高い誤答に着目する

- ④解答類型の反応率から誤答の状況（児童生徒はどこでつまづいているのか）をつかみます。

類型2が25.1%で誤答の反応率が高い

算数

1段目：山梨県（公立）の割合 2段目：全国（公立）の割合

問題番号	問題の概要	解答									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	
1 (3)	アとイの二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	51.6	25.1	8.1	9.9					3.5	1.9
		55.8	22.9	6.9	9.5					3.5	1.4

「解答類型」

一人一人の児童生徒の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのもの。

「解答類型ごとの反応率」

各設問の解答類型別の反応率を見ることで、誤答に目を向け授業改善の視点を探ることができる。

正誤だけではなく、一人一人の誤答の状況や誤答の割合が高い類型に注目することで、児童生徒がどんなことにつまづいているのかが見える。さらに、課題の質を吟味することにより、学習指導の改善・充実を図ることができる。

(3) 誤答から児童生徒の実態をつかむ

- ⑤誤答の原因（どこに課題があるのか）を考えます。

(4) 児童生徒の実態を踏まえて授業をつくる

- ⑥対象学年だけでなく、それぞれの学年で取り組むべきことを明らかにします。
- ⑦「授業改善のPoint' 21」や「授業をつくる」（山梨県総合教育センターよりダウンロード可）、「国の調査資料」（解説資料、報告書、授業アイデア例等）を参考にして指導改善・充実を図りましょう。

報告：第15号

3 質問紙調査の本市の結果について

(1) 児童生徒質問紙調査の特徴

① 小学校【児童質問紙調査】

■ 【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	4.2
6	自分には、よいところがあると思いますか	3.1
7	将来の夢や目標を持っていますか	4.3
8	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	5.2
9	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	4.9
10	人が困っているときは、進んで助けていますか	3.2
13	学校に行くのは楽しいと思いますか	4.4
15	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	6.4
17	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	3.4
24	今住んでいる地域の行事に参加していますか	5.0
25	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	6.8
31	5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか	3.5
32	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	5.0
33	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	3.5
35	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	4.5
37	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	3.7
38	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	4.8
39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	5.1
40	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	7.4
41	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	6.1
43	国語の勉強は好きですか	5.5
45	国語の授業の内容はよく分かりますか	5.1
47	国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	4.5
48	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	4.8
49	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	5.9

報告：第15号

50	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか	5.8
56	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	6.5
58	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	3.3
61	英語の勉強は好きですか	7.6
62	5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか	7.5
64	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	6.2
65	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	5.8
66	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	6.5

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※2時間以上で比較	-4.4
26	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	-10.9
27	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	-18.7
68	解答時間は十分でしたか（国語）	-7.4
69	解答時間は十分でしたか（算数）	-5.1

②中学校【生徒質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	3.0
6	自分には、よいところがあると思いますか	4.8
7	将来の夢や目標を持っていますか	5.8
8	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	3.2
9	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	4.2
15	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	6.6
25	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	5.1
31	1，2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか	5.2
32	1，2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	4.1
35	1，2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	5.3
37	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	3.2

報告：第15号

40	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	13.0
41	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	8.2
42	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	7.2
43	国語の勉強は好きですか	3.4
45	国語の授業の内容はよく分かりますか	3.7
47	国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	4.2
49	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	5.0
50	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか	3.3
58	数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	3.9
59	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	7.0
62	1, 2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか	3.5
64	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	3.9

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
5	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか ※3時間以上で比較	-3.0
20	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）	-3.6
26	1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	-17.4
27	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	-26.2
52	数学の勉強は好きですか	-3.3
68	解答時間は十分でしたか（国語）	-5.0
69	解答時間は十分でしたか（数学）	-5.5

③児童生徒質問紙調査について

質問紙調査の設問数が今年度は小学校、中学校ともに69だった。（一昨年度は小学校59、中学校は69）コロナ禍に関する質問も新たに付け加わっている。全国平均と比べて3ポイント以上、上回る設問が、小学校では33、中学校で23あった。反対に3ポイント以上下回る設問が、小学校では5、中学校で7あった。小学校、中学校ともに8割以上の設問で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。

<小学校>

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。「社会に開かれた教育課程」のもと、地域と学校で児童の育成に関わっている様子が分かる。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自

報告：第15号

分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。学級の問題を解決する方法や目標を、学級の話し合いから作り出し、互いを認め合いながら学級をよりよくしていこうとする様子が見える。

- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。6年生になるまでに、課題で必要な情報を集め、それらを活用しながら、相手に分かりやすく発表する経験を積んできていることが見える。
- 「5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について肯定的な回答が全国平均を上回っている。学びにおいては、対話的な活動を取り入れながら深い学びへとつなげている様子が見える。また、「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」も肯定的な回答が全国平均を上回っており、主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業改善が児童にも浸透していることが見える。
- 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からない点を見直し、次の学習につなげることができていますか」について肯定的な回答が全国平均を上回っており、甲府市で推奨している「見通しと振り返り」が各校においても浸透していることが分かる。
- 教科の中では「英語の勉強は好きですか」が他教科に比べても肯定的な回答が大きく全国平均を上回っている。昨年度より高学年において教科化された外国語が楽しく学んでいる様子が見え、中学に向けてのスムーズな連結にも期待がもてる。
- 今年度は、コロナに関する質問も加わった。「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」について、全国平均を大きく上回っており、不安を抱えつつも、規則正しい生活を意識し、計画的に学習に取り組んでいた様子が見えた。
- 「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく下回っている。また、「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」も肯定的な回答が全国平均を大きく下回った。今年度よりGIGAスクール構想に伴い、一人一台端末が配備されたため、今後は改善されていくと思われる。

<中学校>

- 「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」については、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っており、コロナ禍において不安が多い状況ではあるが、前を向いて学習等にしっかり取り組み、将来についても真剣に考えている様子が見える。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自

報告：第 15 号

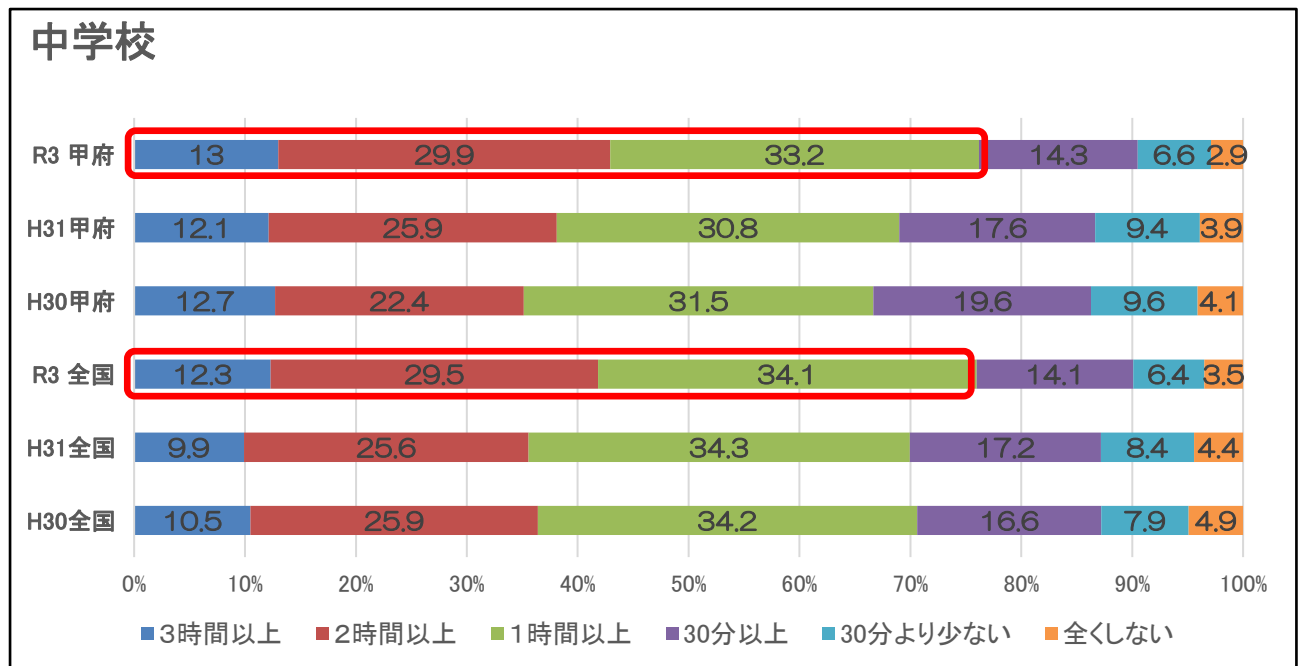
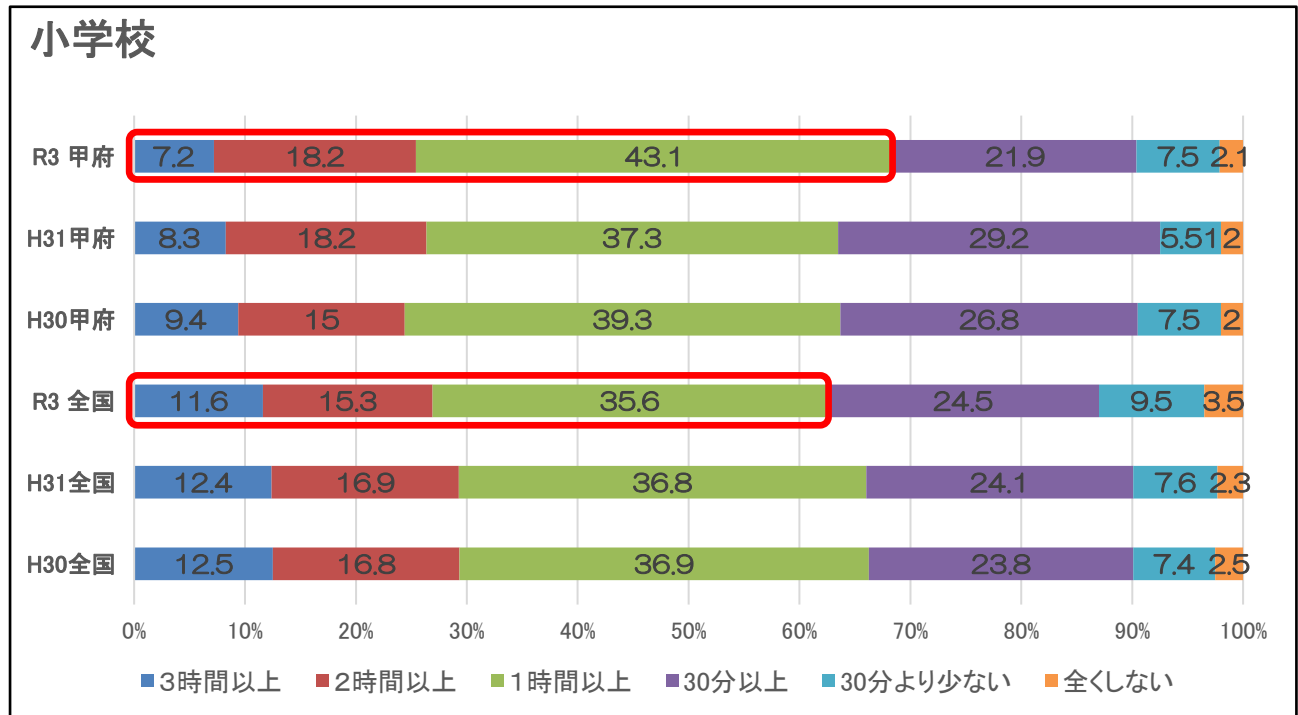
分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。中学生になり、自主的に学級の問題を解決する方法や目標を、話し合いから作り出し、互いを認め合いながら学級生活を送っている様子が見えてくる。

- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「1，2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていきますか」について肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。授業において、友達との話し合いを楽しみながら、自分の考えを深めていることがうかがえる。また、「1，2年生の時に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」も肯定的な回答が全国平均を上回っており、対話的な学習形態に慣れ親しんでいることが分かる。
- 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っていた。甲府市で昨年度より推奨している「ノート指導と板書は表裏一体」が、各中学校においても取り組まれている成果と考えられる。
- 教科で見ると、一昨年に引き続き「国語」に関する質問で、肯定的な回答が全国平均を上回るものが多かった。
- 「あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」について、小学校同様に肯定的な回答が全国平均を大きく下回っている。また、「1，2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」も全国平均を大きく下回った。中学校においても、今年度より GIGA スクール構想に伴い、一人一台端末が配備されたため、今後は改善されていくと思われる。

報告：第15号

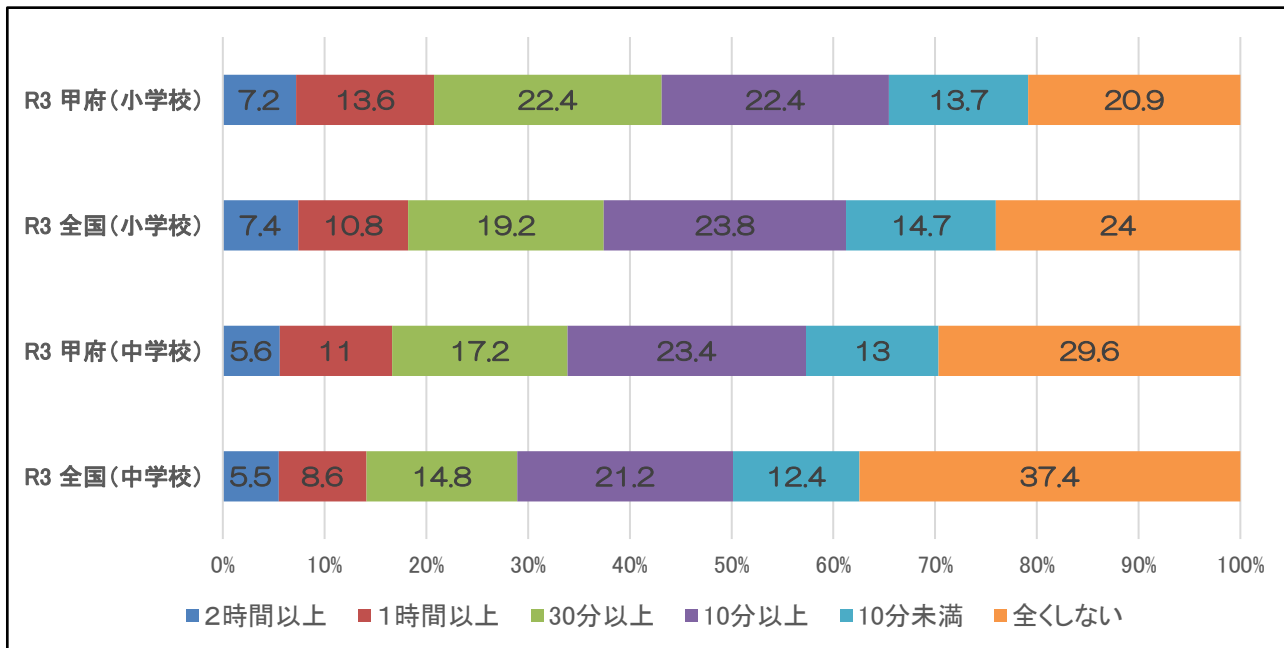
☆児童質問紙のうち、家庭学習に関わる資料（無回答等は除く）

学校の授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間等を含む）

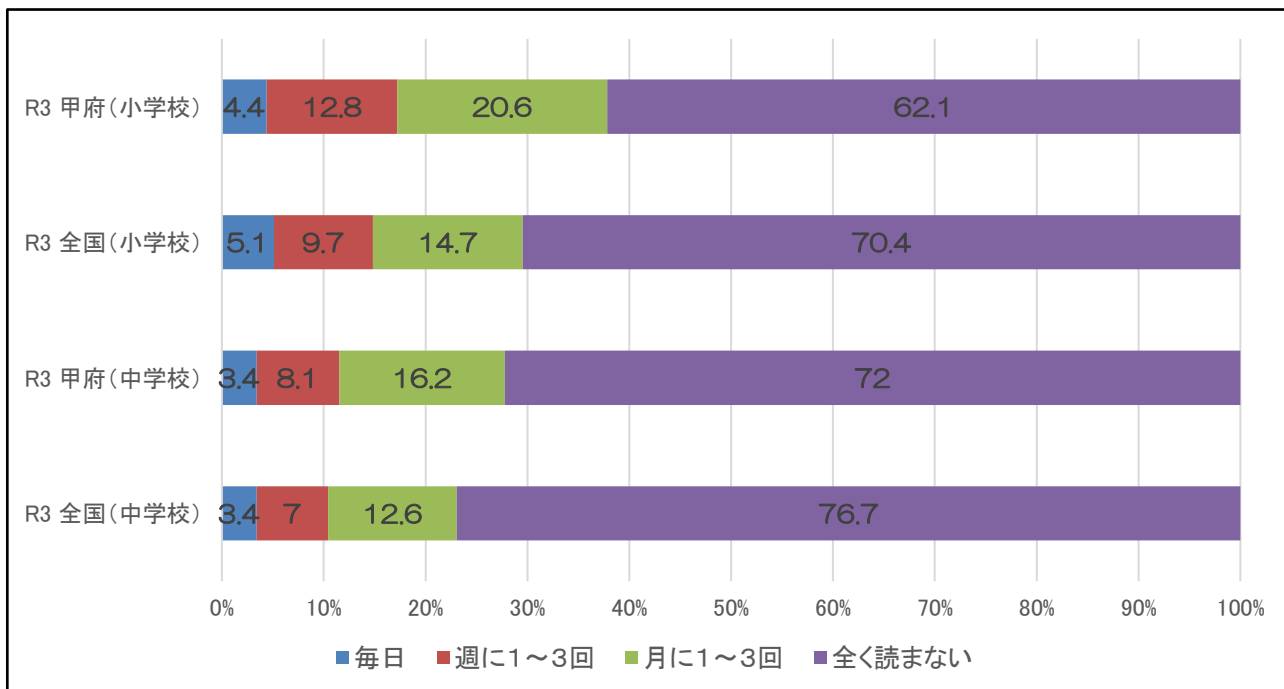


報告：第15号

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

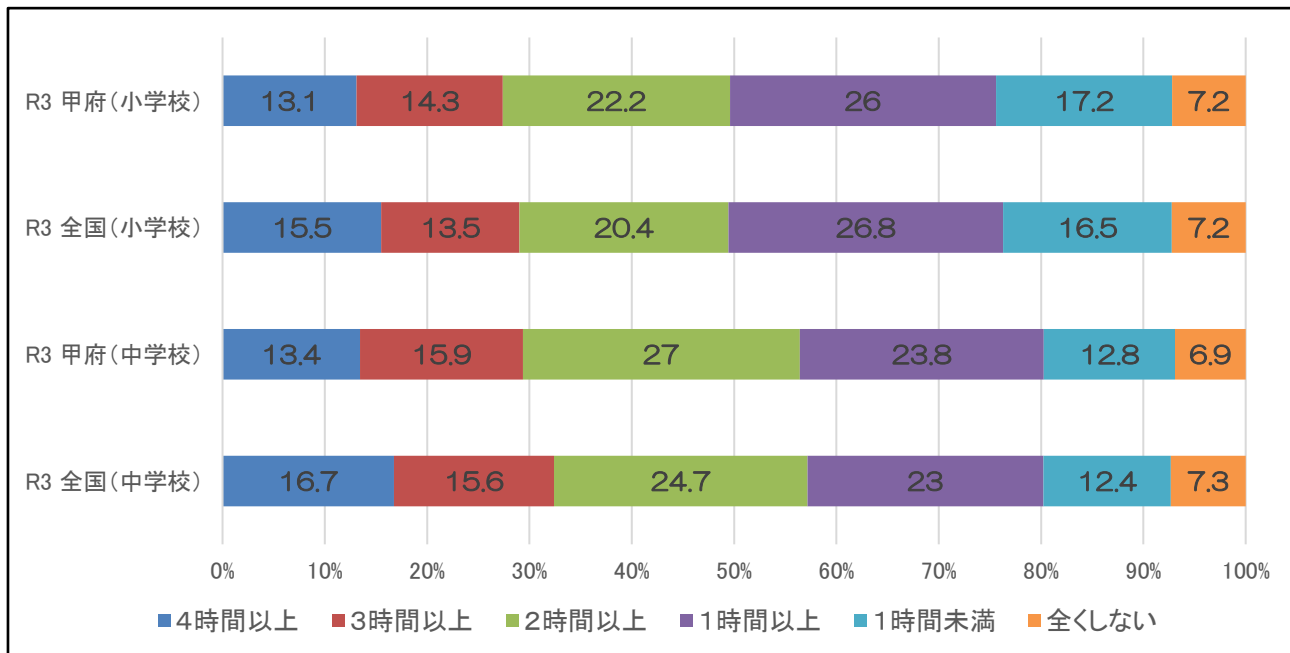


新聞を読んでいますか。

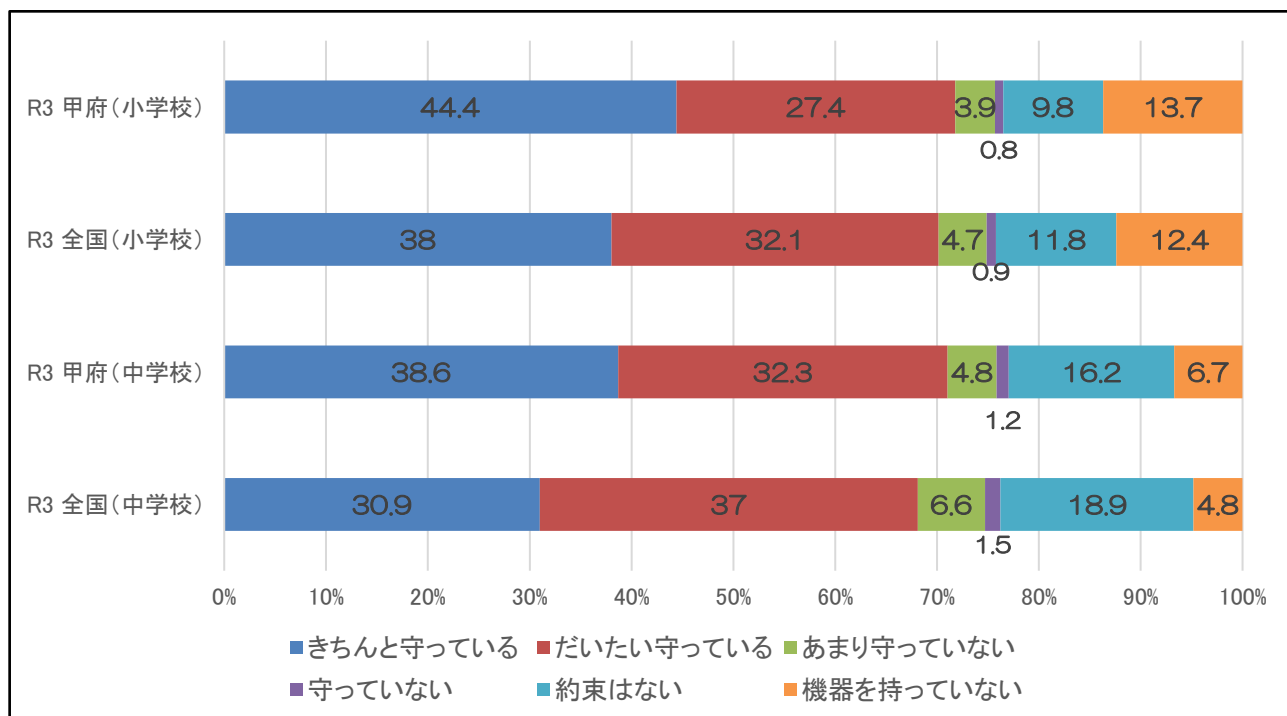


報告：第15号

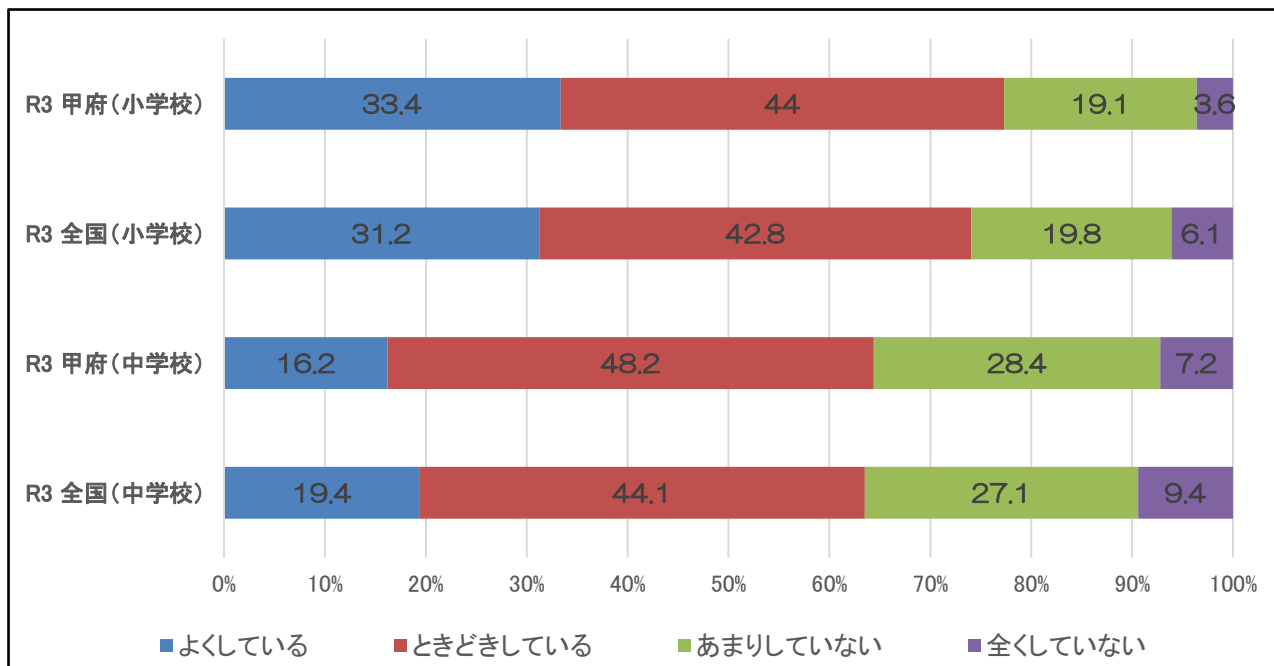
普段（月～金）1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（PC、携帯式、スマホ含む）をしますか。



携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



家で、計画を立てて勉強していますか。



【改善のための方策】

新学習指導要領第1章第1の2の(1)の中にも「家庭との連携を図りながら、児童(生徒)の学習習慣が確立するように配慮すること」とある。家庭学習は、「学んだことを定着させる」という重要な役割があり、確かな学力の向上には欠かせないものである。

○「家庭学習」のあり方について全職員で共通理解を図る

- ① 学校としての家庭学習の方針や目的
- ② 児童生徒の家庭学習の実態と目標
- ③ 課題の内容と量
 - ・授業と関わる課題で児童生徒が取り組める内容
 - ・課題が明確で取り組むねらいが把握できる(予習・復習・自主課題など)
 - ・児童生徒が意欲的に取り組める分量

(統一、徹底していくというチームとしての取組が必要。一方で、その児童生徒に合った量や質を考慮していくことも必要)

- ④ 家庭学習の意欲の維持のさせ方
 - ・家庭学習の課題についての適切な評価と指導(やらせっぱなしにしない)
 - ・努力を認める声かけや励まし
- ⑤ 児童生徒への家庭学習の指導

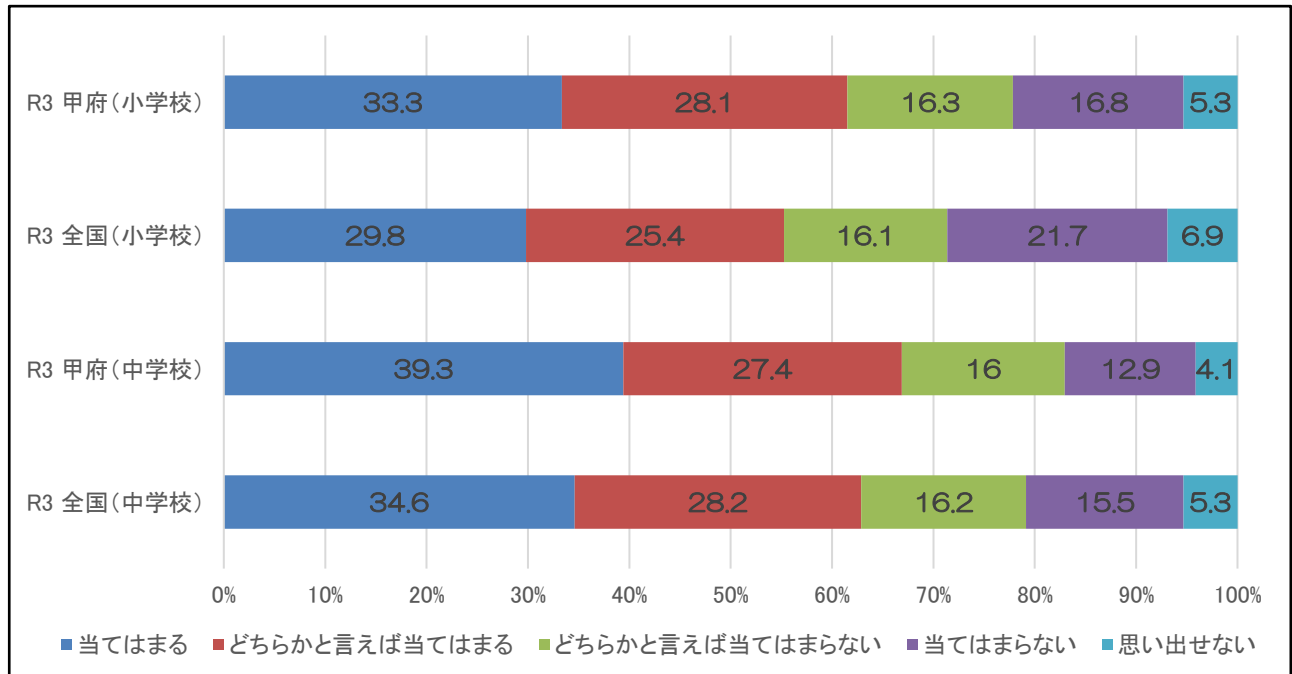
○家庭への協力を依頼する

- ① 家庭学習の具体的内容・方法について「家庭学習の手引き」等で具体的に示す。
- ② 学校が家庭学習について説明したり保護者から家庭学習に関する相談を受けたりする場を設定する。
- ③ 発達の段階に応じて、「家庭学習カード」等で保護者にも家庭学習の点検と励ましをお願いする。
- ④ テレビやビデオ・DVDの視聴時間、ゲーム、携帯電話・スマートフォンの使用時間などについてルール作りを行うことを促す。

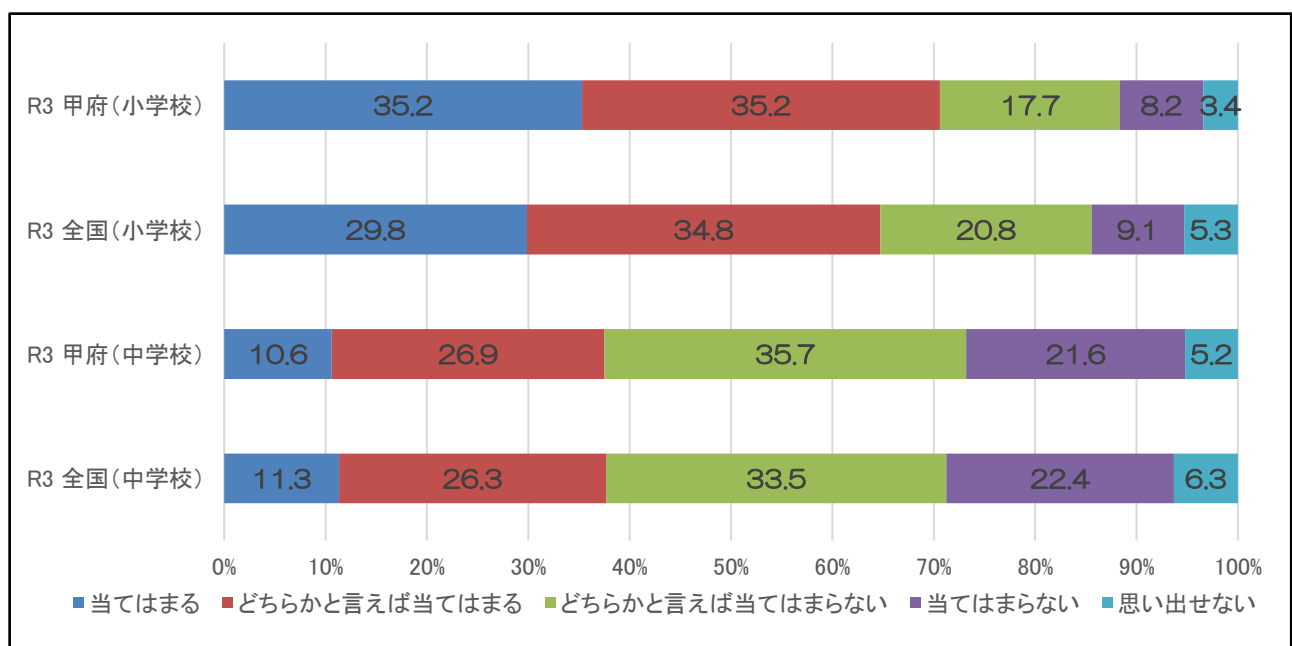
報告：第 15 号

☆児童質問紙のうち、コロナ禍に関わる資料（無回答等は除く）

新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じていましたか。

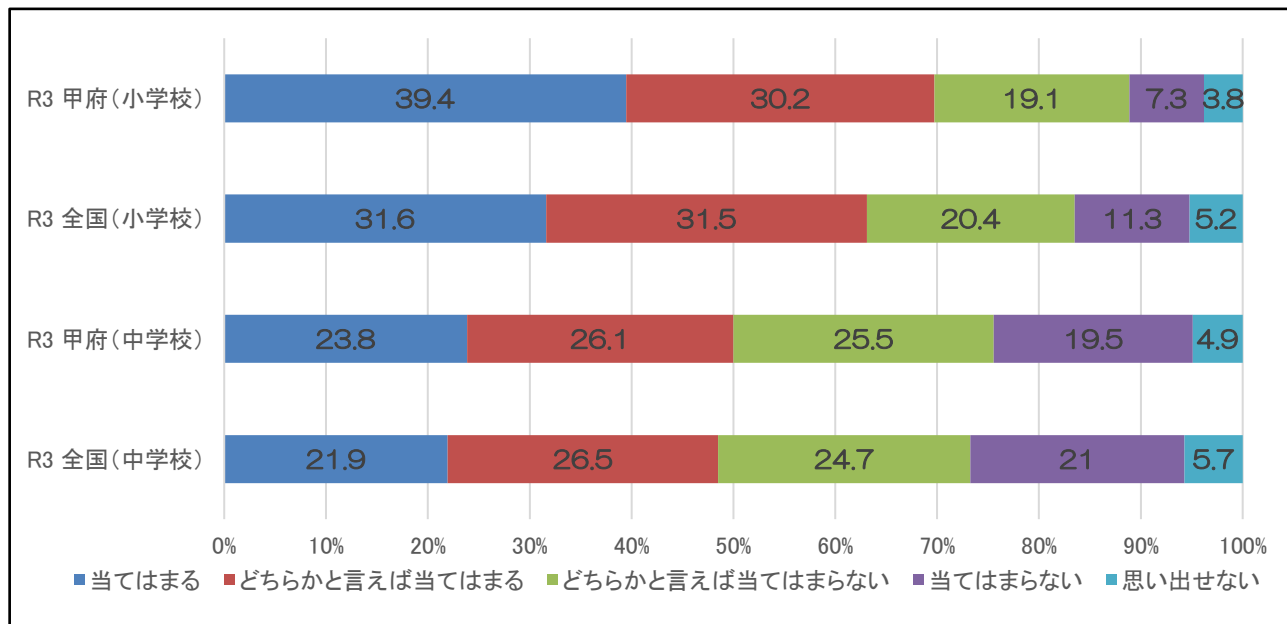


新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。

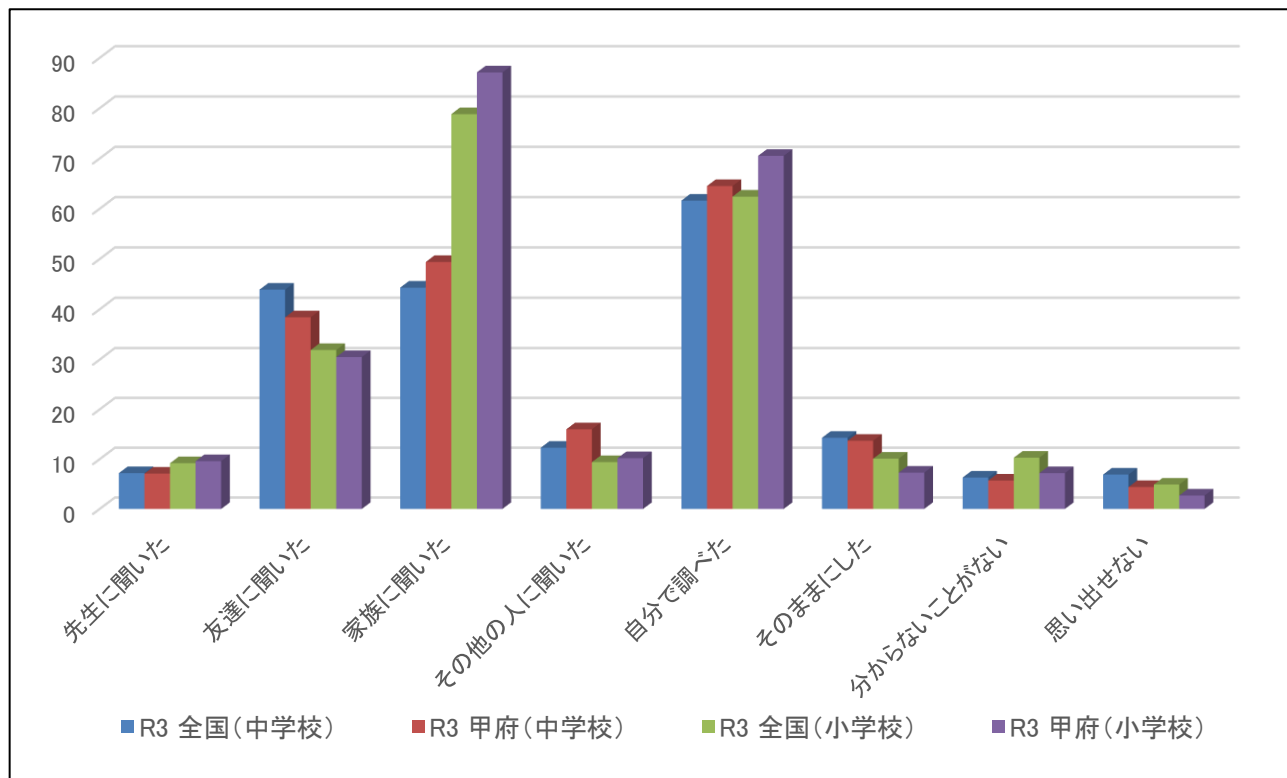


報告：第 15 号

新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中，規則正しい生活を送っていましたか。



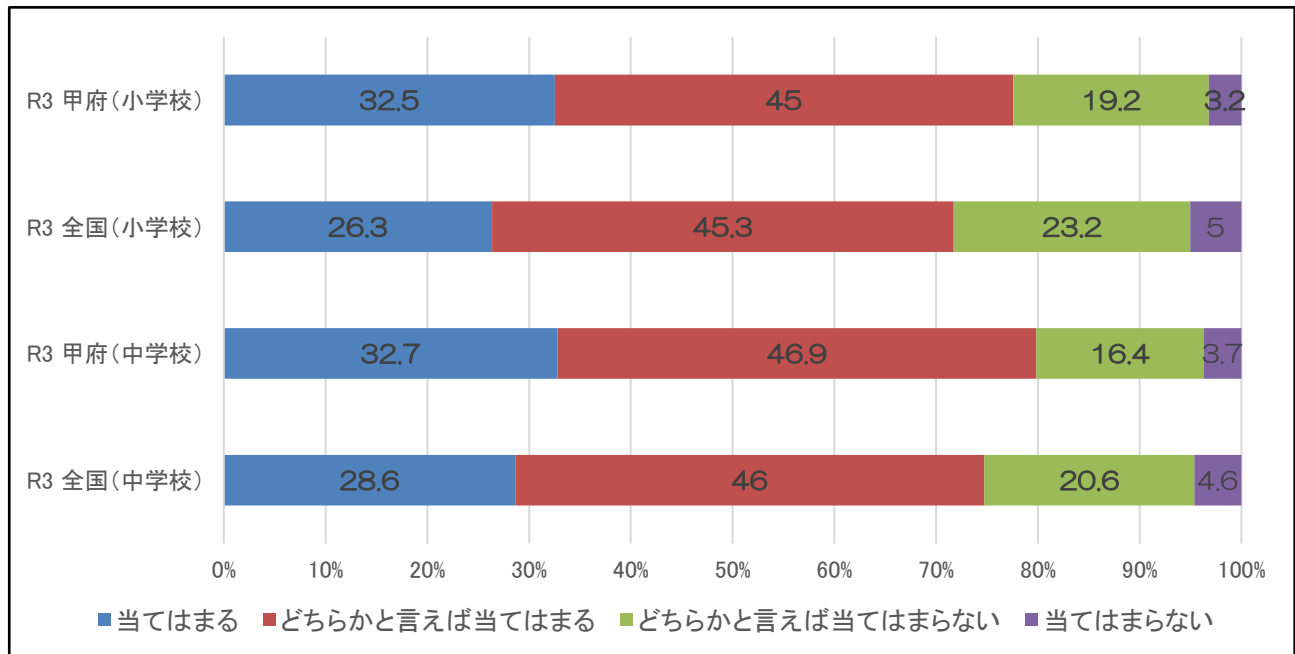
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中，学校からの課題で分からないことがあったとき，どのようにしていましたか。(複数回答)



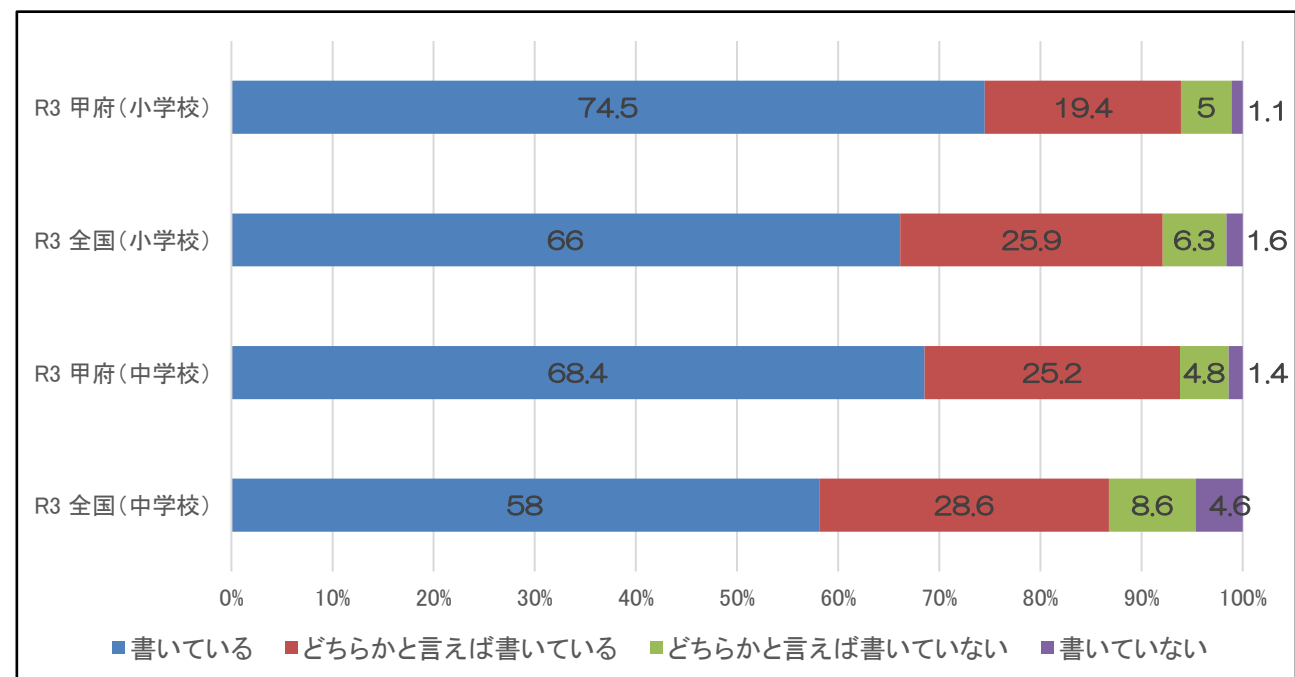
報告：第 15 号

☆児童質問紙のうち、授業に関わる資料（無回答等は除く）

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか

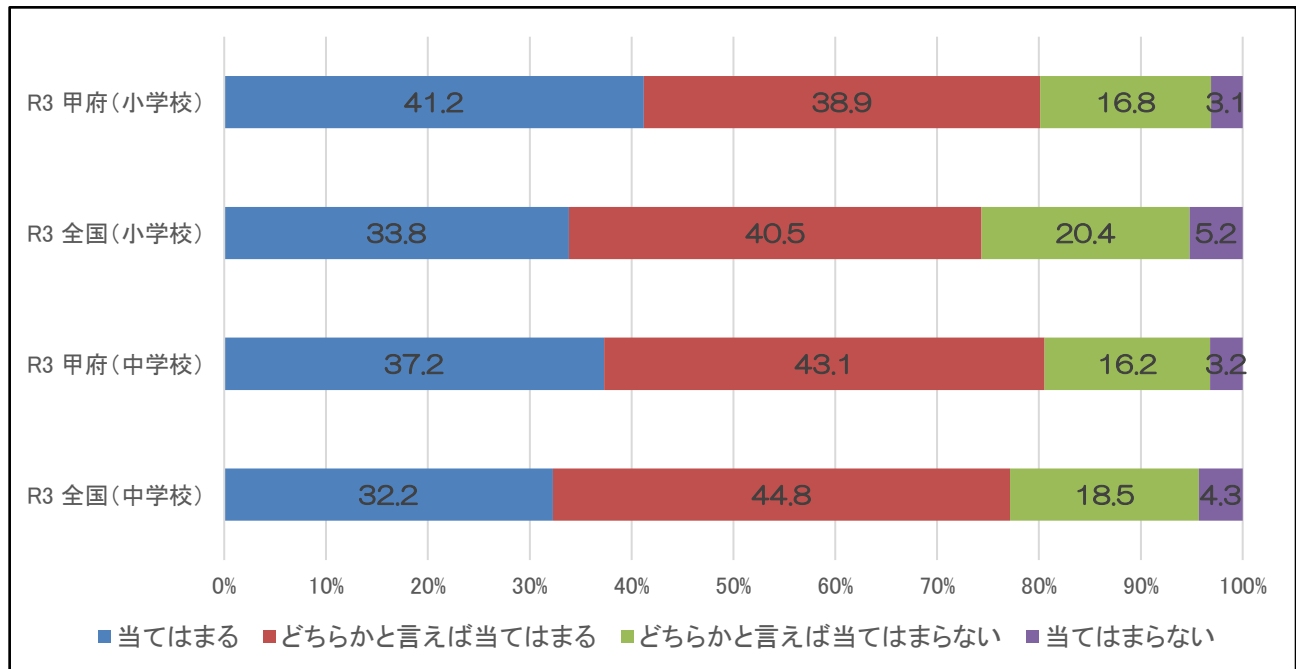


算数（数学）の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

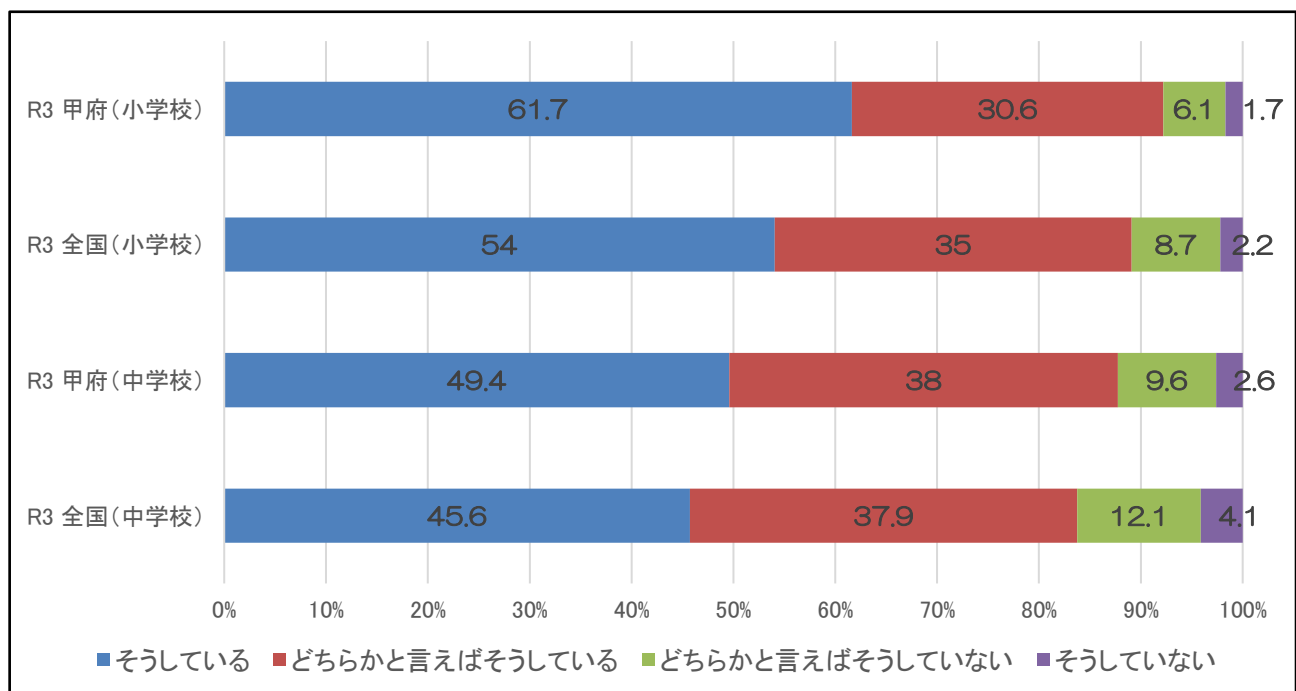


報告：第15号

国語の授業では、目的に応じて、文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか（内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか）



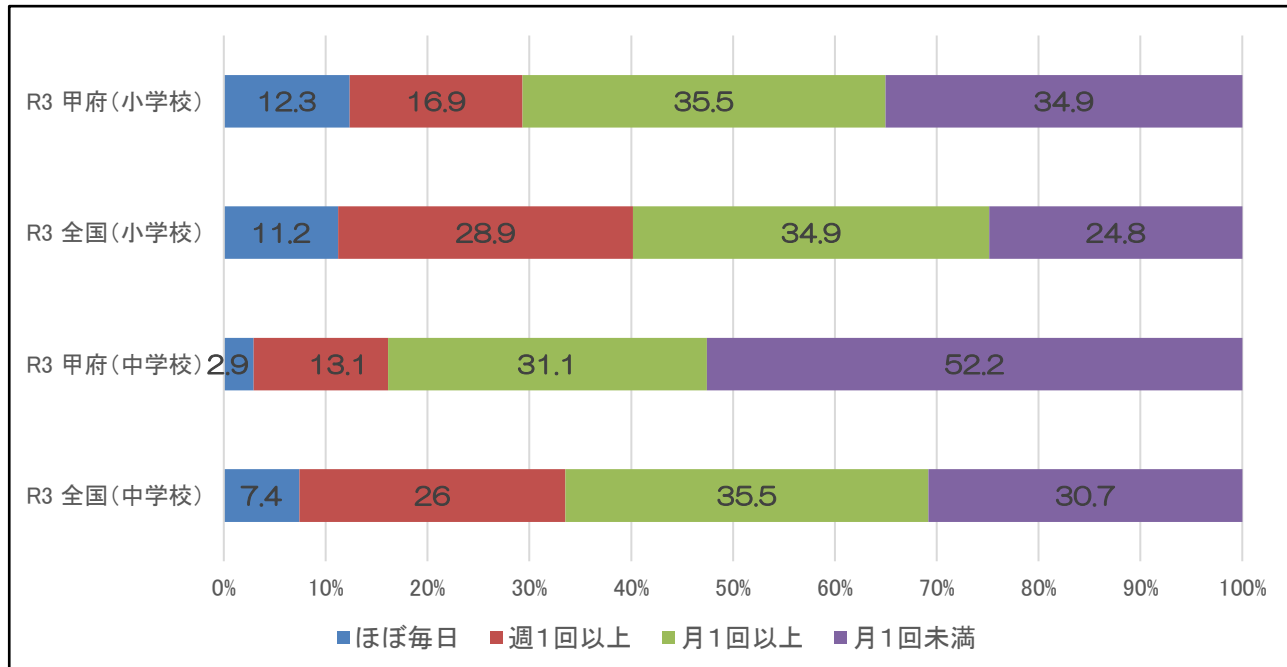
算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



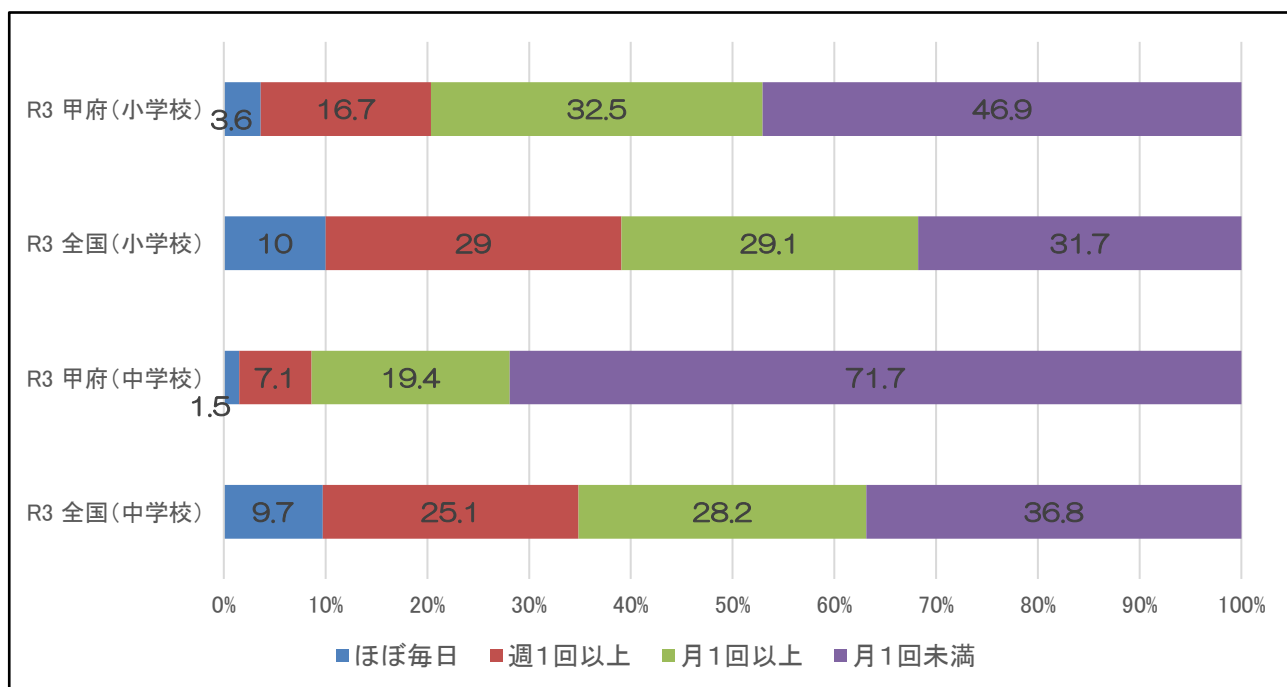
報告：第 15 号

☆児童質問紙のうち，ICTに関わる資料（無回答等は除く）

5年生（1，2年生）までに受けた授業で，コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか

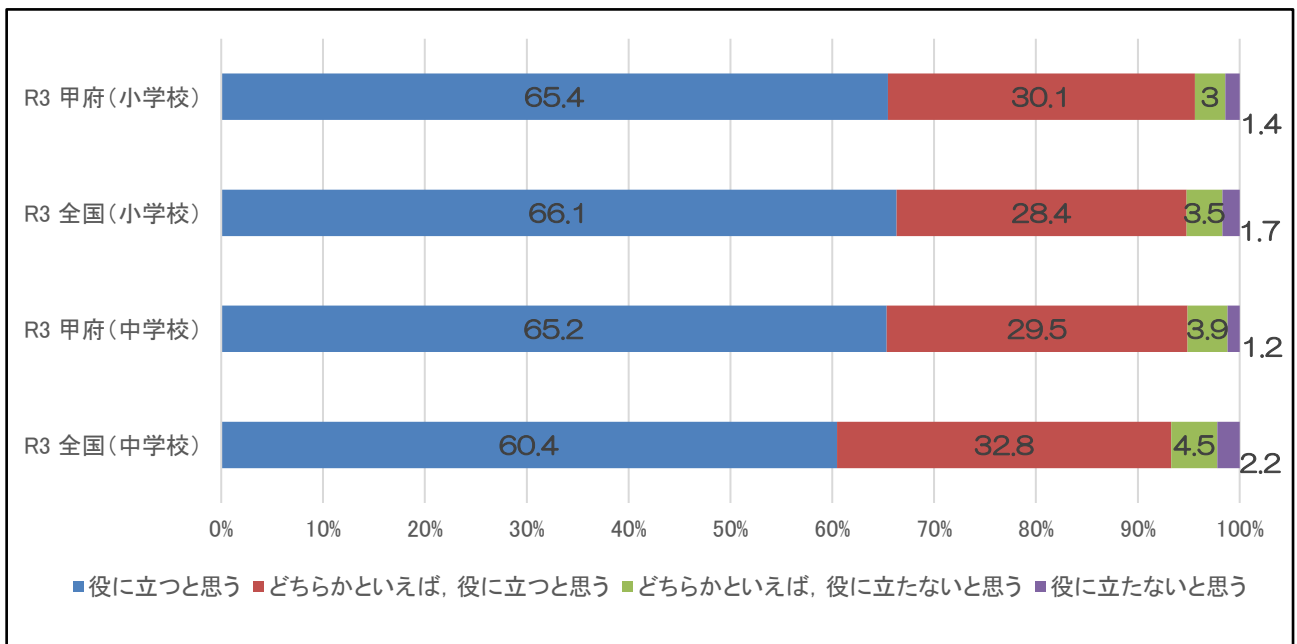


あなたは学校で，コンピュータなどのICT機器を，他の友達（生徒）と意見を交換したり，調べたりするために，どの程度使用していましたか

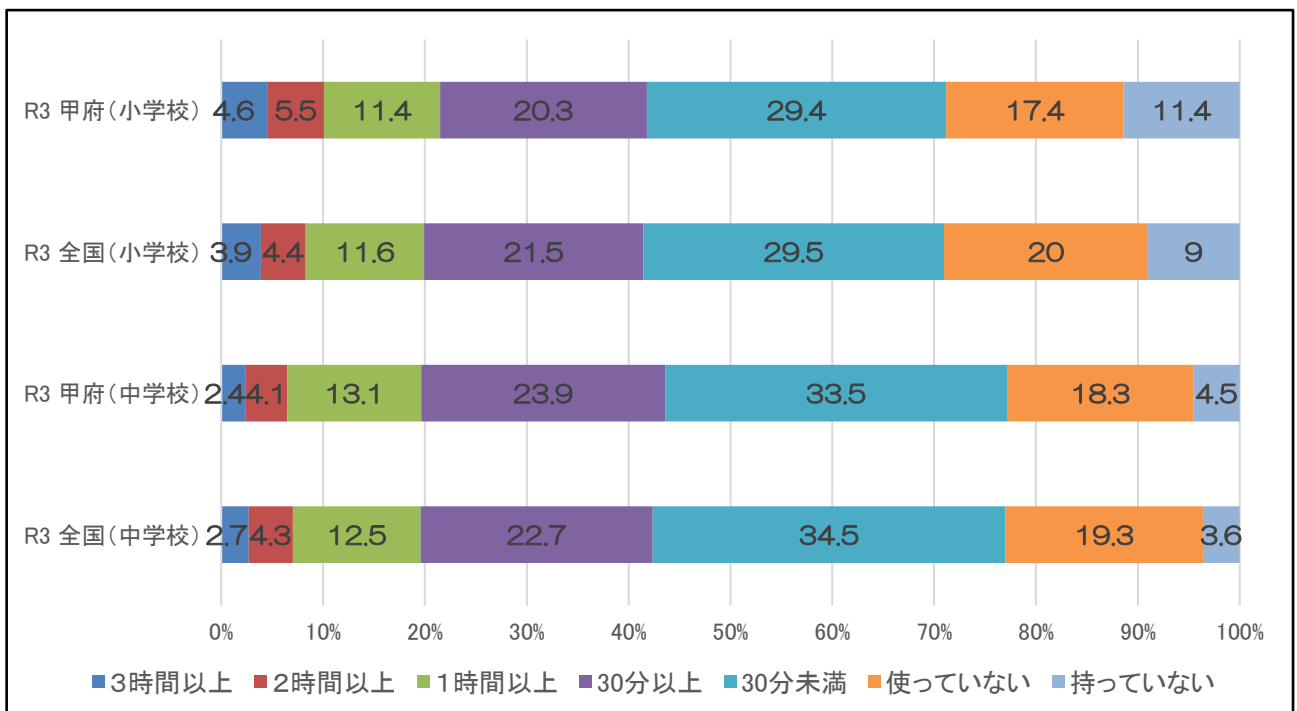


報告：第 15 号

学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強に役に立つと思いますか



普段(月～金)、1日当たりどれぐらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか



報告：第15号

(2) 学校質問紙調査の特徴

(全国平均：全国平均との比較)

①家庭学習について

○家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 95.8% (90.6% : +5.2)

[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 91.7% (85.5% : +6.2)

○家庭学習の取組として、学校では、児童(生徒)に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 100% (95.5% : +4.5)

[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 91.6% (91.9% : -0.3)

○家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童(生徒)の学習改善に生かしましたか

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 100% (89.4% : +10.6)

[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 100% (85.4% : +14.6)

②学校としての取組体制について

○学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。

[小学校] 「よく取り組んでいる」「どちらかといえば、取り組んでいる」 100% (98.7% : +1.3)

[中学校] 「よく取り組んでいる」「どちらかといえば、取り組んでいる」 100% (98.0% : +2.0)

○児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

[小学校] 「よくしている」「どちらかといえば、している」 95.8% (93.6% : +2.2)

[中学校] 「よくしている」「どちらかといえば、している」 100% (92.7% : +7.3)

③授業について(甲府のたからと関連して)

○授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 75.0% (87.7% : -12.7)

[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 91.7% (84.5% : +7.2)

○授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童(生徒)に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

[小学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 100% (98.3% : +1.7)

[中学校] 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 100% (97.8% : +2.2)

<引用・参考資料>

- ・「小学校学習指導要領」(文部科学省) ・「中学校学習指導要領」(文部科学省)
- ・「令和3年度全国学力・学習状況調査解説資料」(文部科学省・国立教育政策研究所)
- ・「令和3年度全国学力学習状況調査 報告書」(文部科学省・国立教育政策研究所)
- ・「平成31年度甲府市における調査結果のポイント」(甲府市教育委員会)

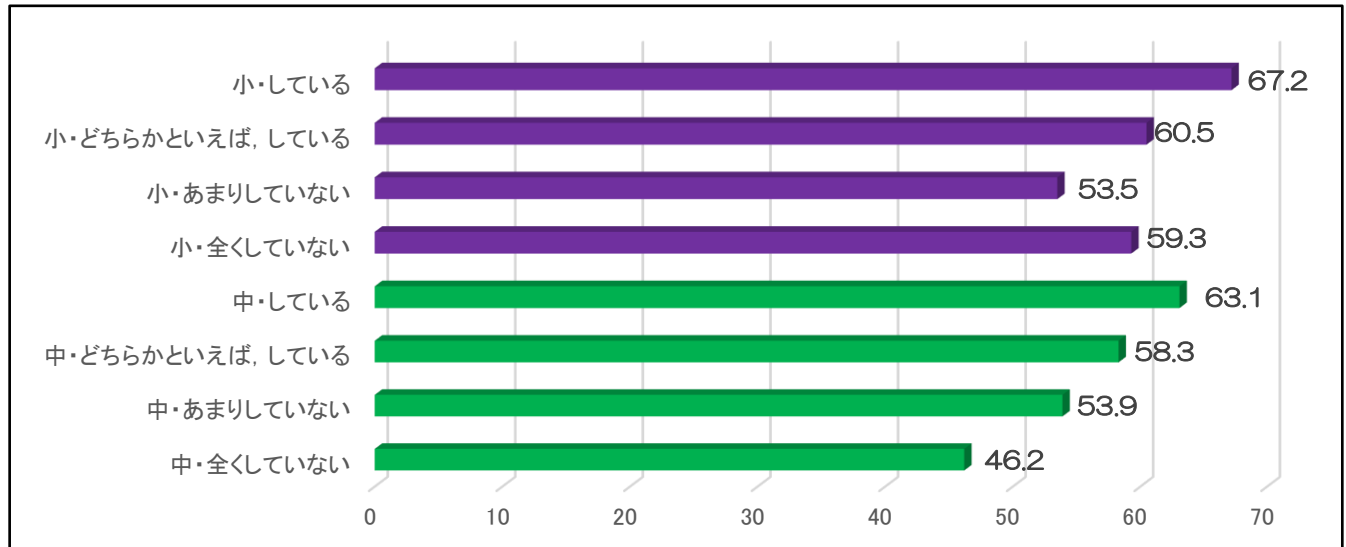
報告：第 15 号

資料 1 平均正答率と質問紙調査の相関関係

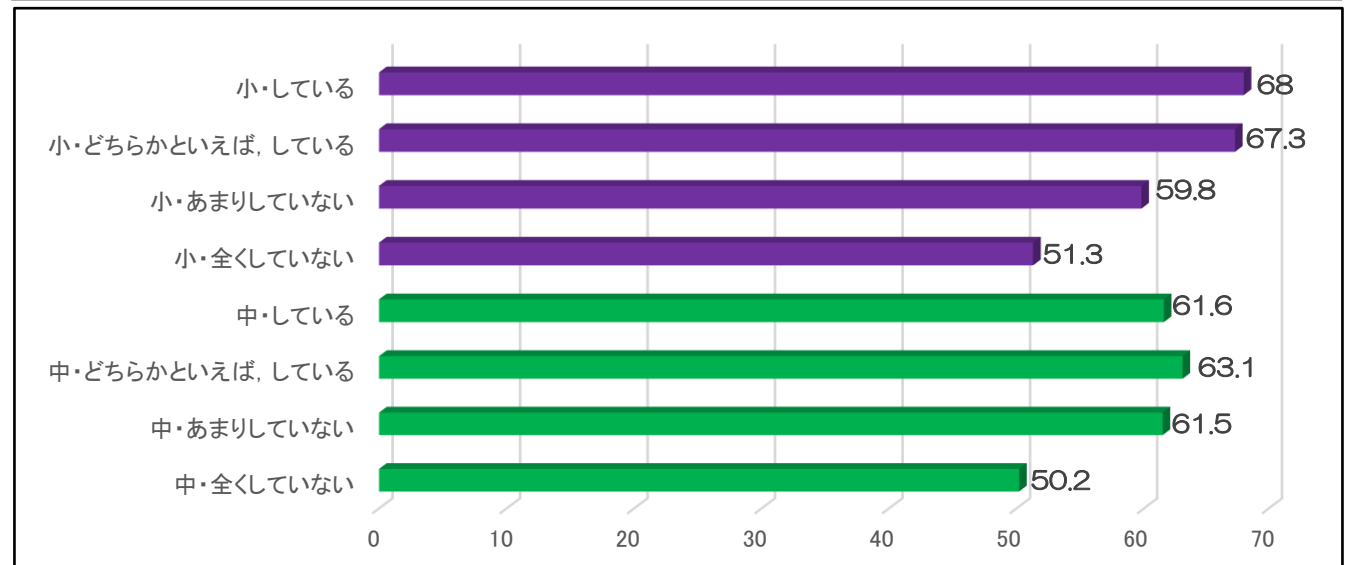
このグラフにおける「合計平均」は、平均正答率の和【国語と算数（数学）】を2でわったもの。棒グラフが長いほど、全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）が高い。

<生活習慣について>

朝食を毎日食べていますか

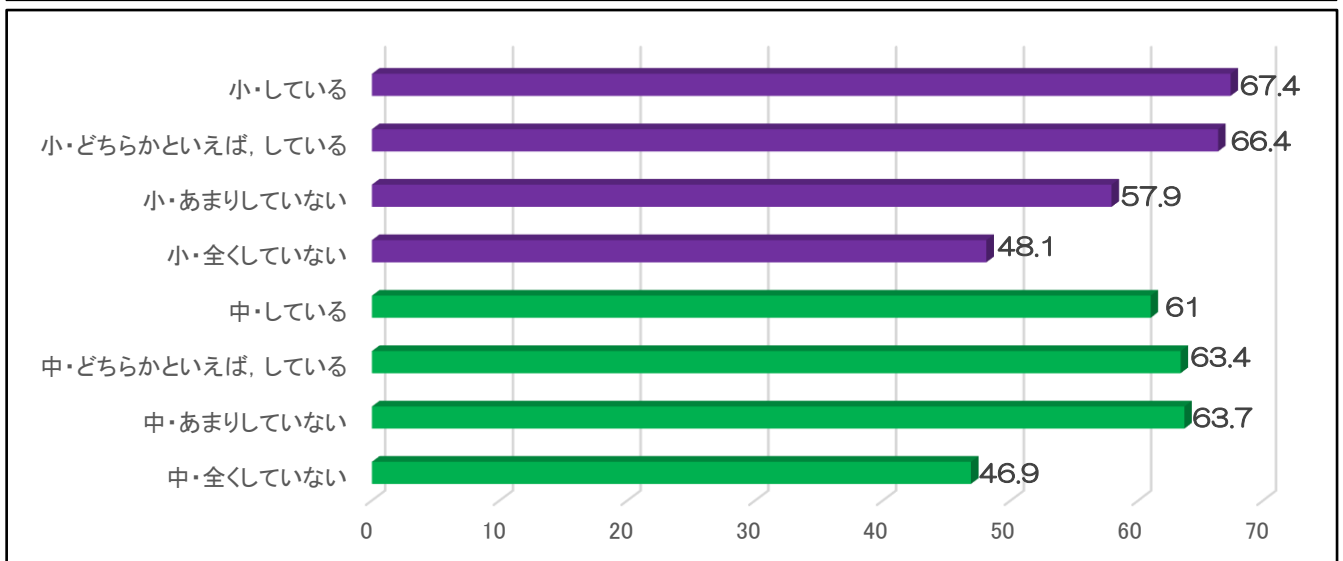


毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



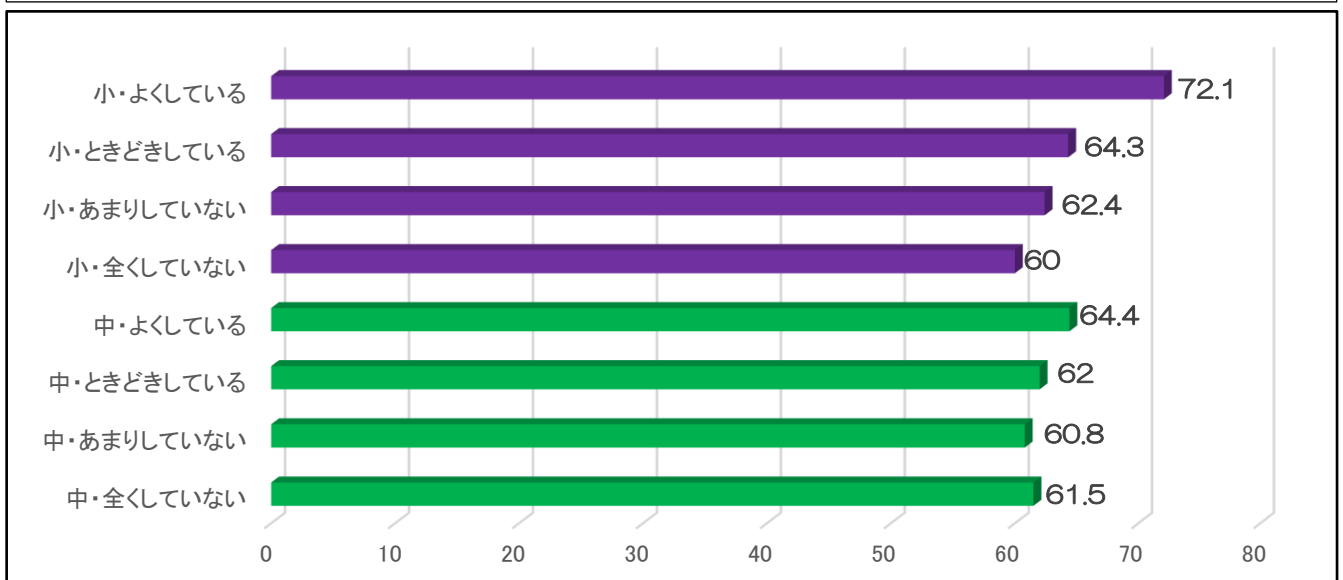
報告：第15号

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



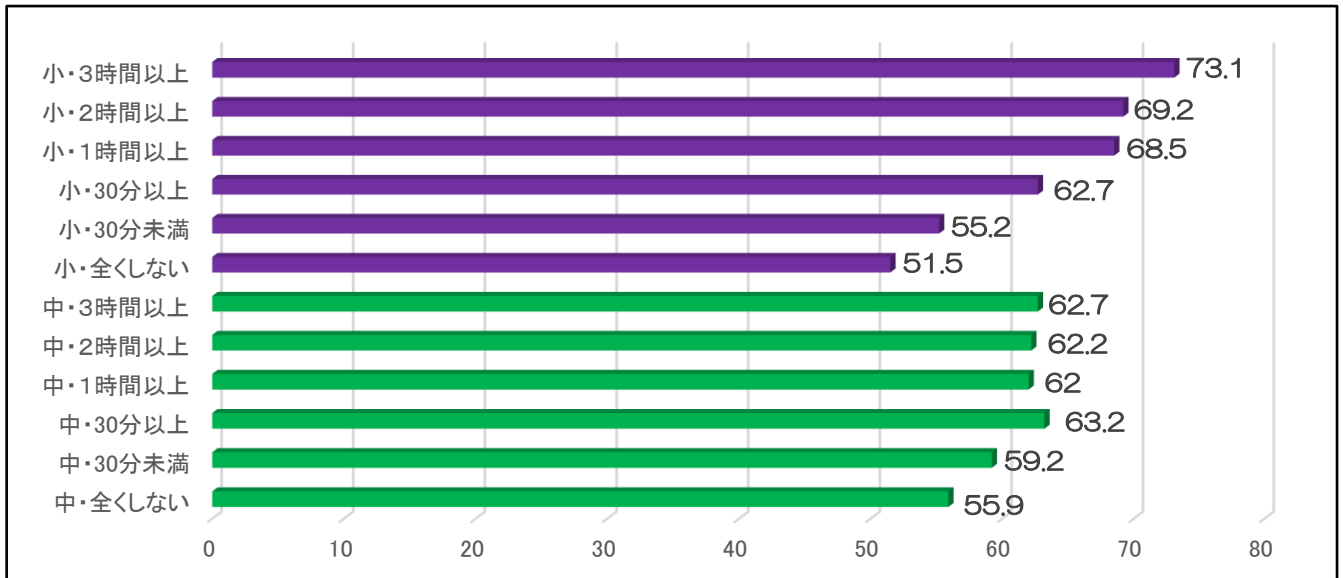
<家庭学習について>

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

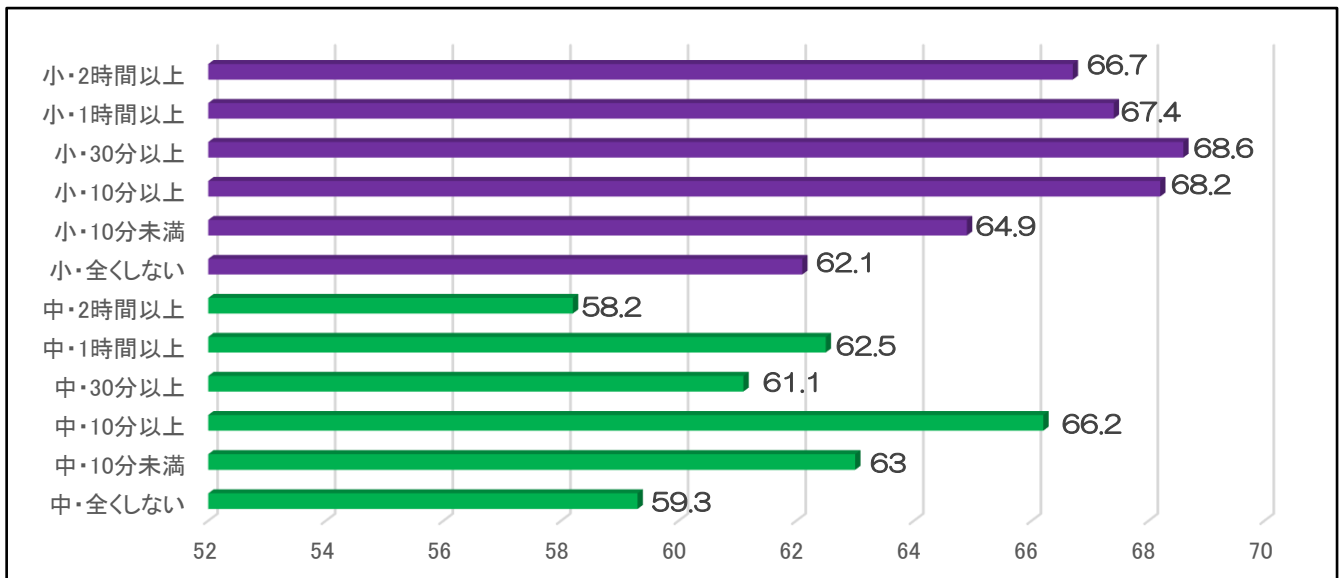


報告：第15号

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

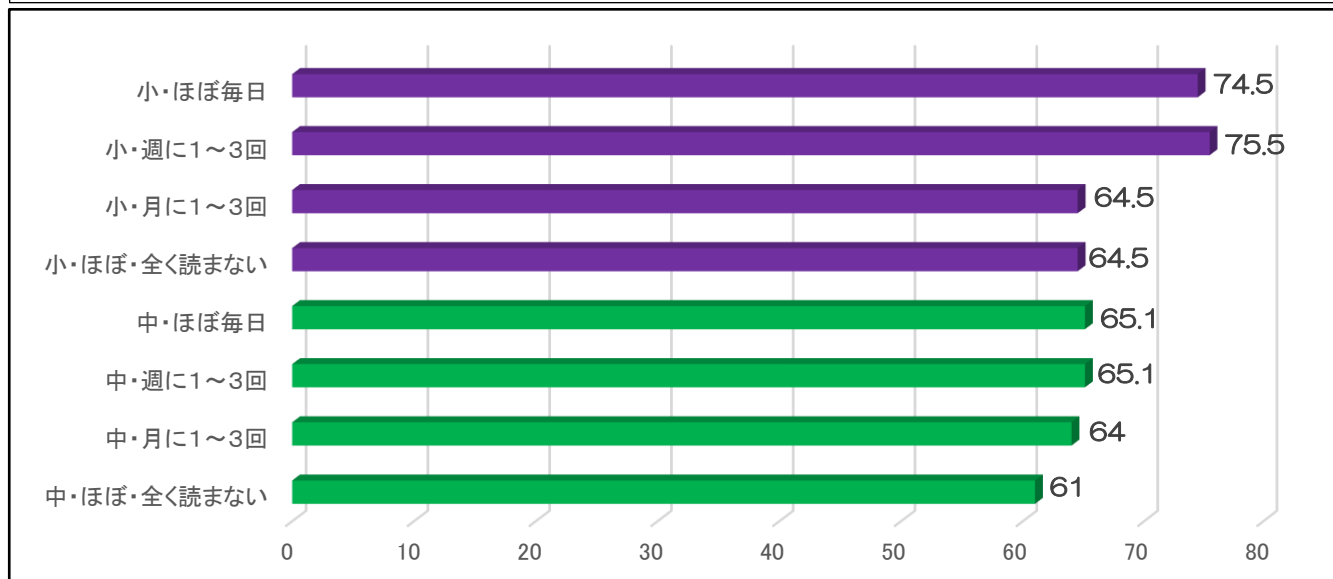


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

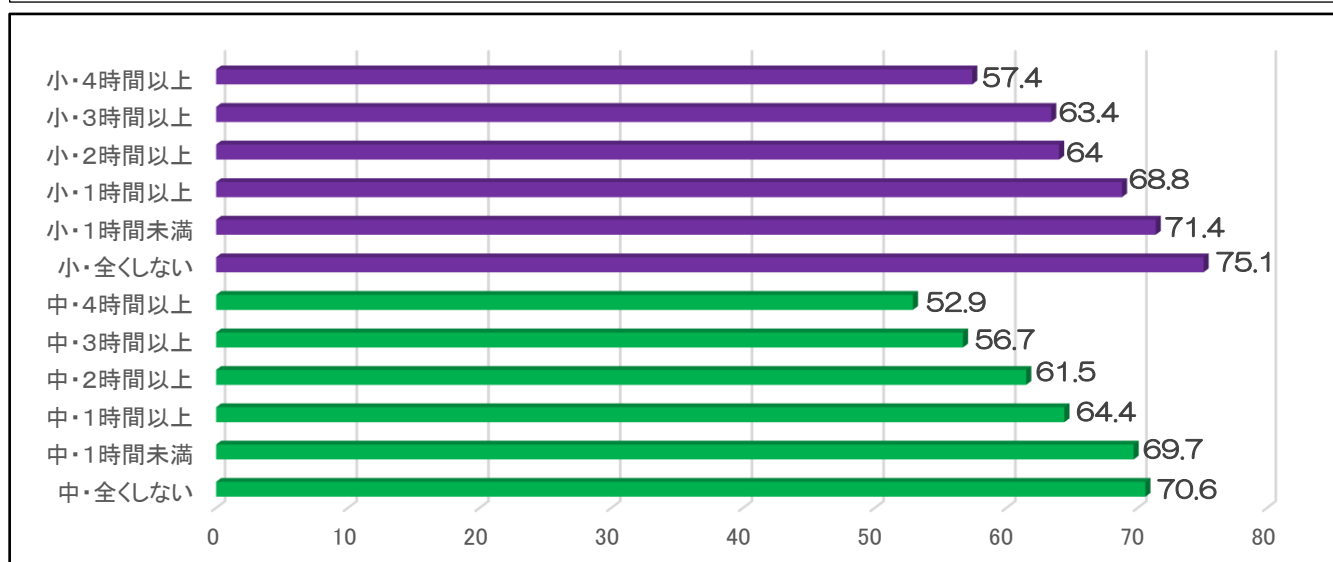


報告：第15号

新聞を読んでいますか



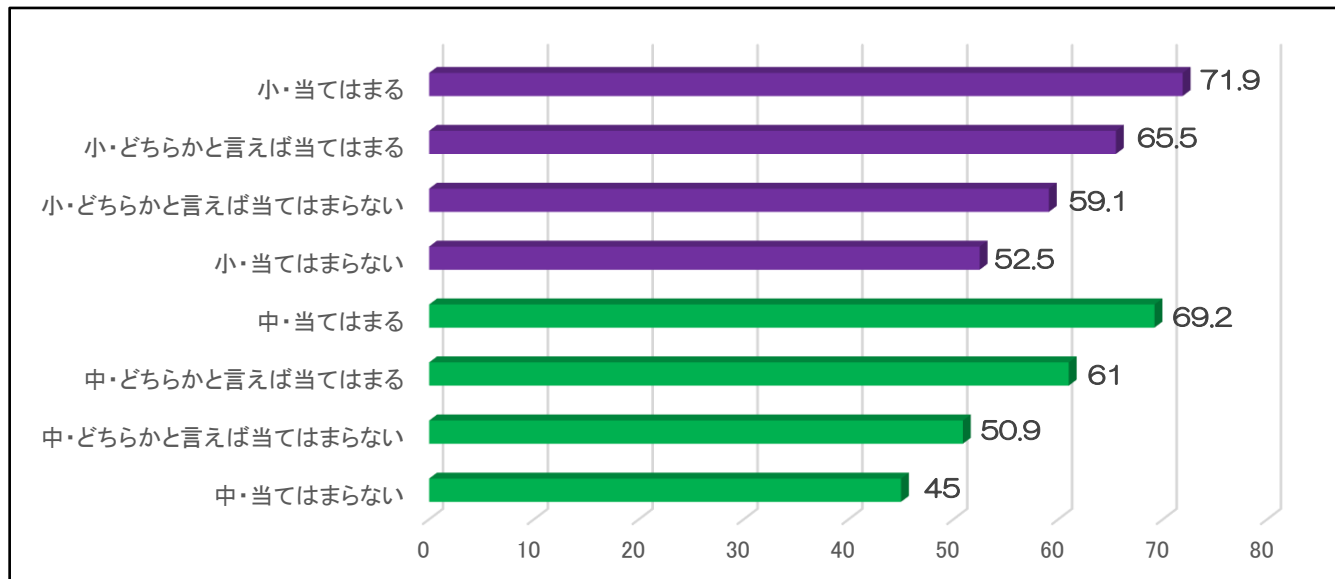
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



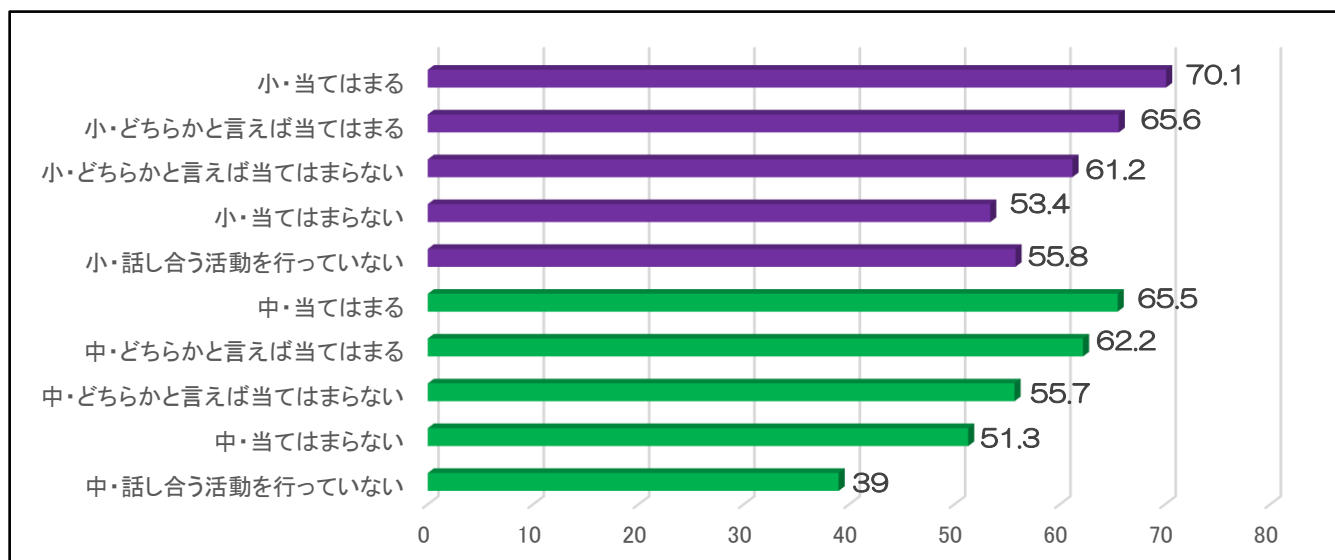
報告：第 15 号

<学習の方法について>

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

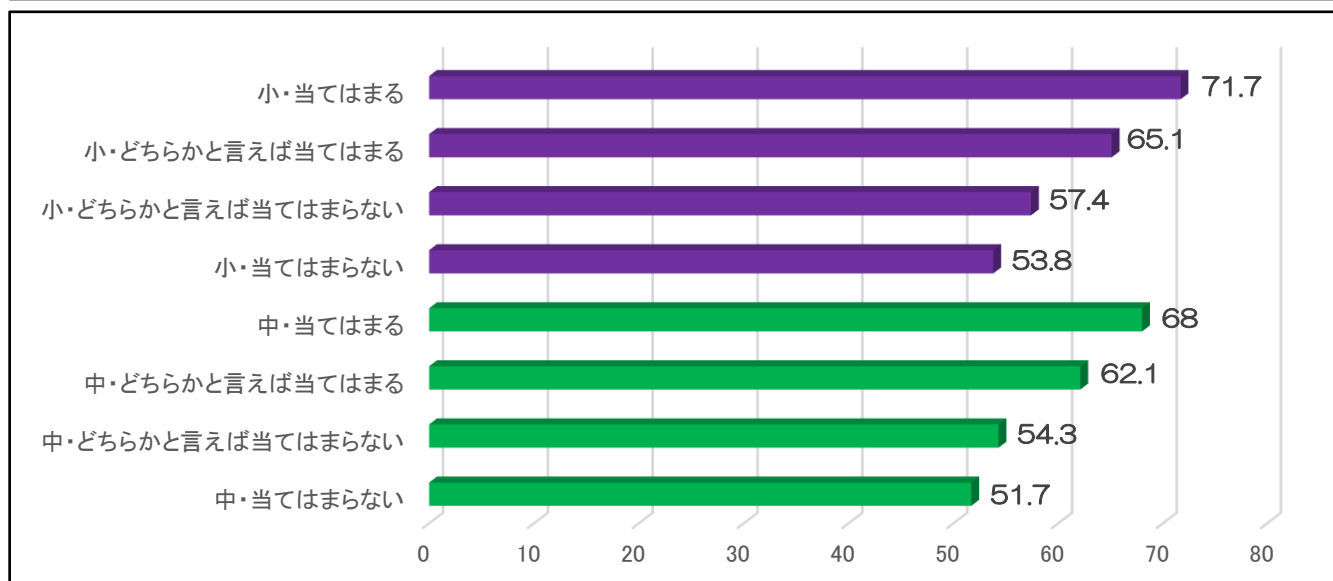


学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



報告：第 15 号

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



資料 2 令和 3 年度甲府市学校教育指導重点に関わって

令和 3 年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙・学校質問紙から、甲府市学校教育指導重点との関わりについて分析した。

国・県両方を上回っている ◎ 国もしくは県を上回っている ○ 国・県両方を下回っている △

1 重点目標に関わる設問への回答状況

☆「思い遣る心の育成」に関わる設問の回答状況

将来の夢や目標を持っている (児童生徒質問紙 設問 7)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	◎
人が困っているときは、進んで助けていますか (児童生徒質問紙 設問 10)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○
いじめは、どんな理由があってもいけない (児童生徒質問紙 設問 11)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○
人の役に立つ人間になりたい (児童生徒質問紙 設問 11)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	◎

☆「生きる力」を育む教育の展開に関わる設問の回答状況

近隣の中学校と教育課程に関する共通の取組を実施 (学校質問紙 設問 77) 【小中連携】	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	◎

報告：第 15 号

「職場見学・職場体験」 (学校質問紙 設問 8 0) 【キャリア教育】	小学校：全国を上回る・県と同じ	◎
	中学校：全国を上回る・県と同じ	◎
児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を実施 (学校質問紙 設問 7 6) 【特別支援教育】	小学校：全国・県を下回る	△
	中学校：全国・県を下回る	△

2 重点項目に関わる設問への回答状況

② 確かな学力の育成

○ 「甲府スタイル」による授業改善

習得・活用・探求の学習過程を見通した授業改善 (学校質問紙 設問 3 6)	小学校：全国・県を下回る	△
	中学校：全国・県を上回る	◎
対話を通して、考えを広げる (児童生徒質問紙 設問 3 7)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国を上回る	○
学習をふり返り，次へつなげる (児童生徒質問紙 設問 3 8)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○

○ 読書習慣，家庭学習の確立

平日の読書時間（30分以上） (児童生徒質問紙 設問 2 1)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	◎
家庭学習の課し方について，教職員での共通理解 (学校質問紙 設問 8 5)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	◎

○ 道徳教育

考え，議論する授業の工夫 (学校質問紙 設問 4 4)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国を上回る・県と同じ	◎

④ 健康・体力の向上

○ 基本的な生活習慣の確立

朝食を毎日食べる (児童生徒質問紙 設問 1)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国・県を上回る	◎
毎日，同じくらいの時刻に寝る (児童生徒質問紙 設問 2)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○
毎日，同じくらいの時刻に起きる (児童生徒質問紙 設問 3)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○

⑤ 信頼される学校づくりの推進

○ 家庭や地域との連携

家庭，地域の教育活動等への参加 (学校質問紙 設問 8 2)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を下回る	△

令和4年 甲府市「成人の日のつどい」の実施について

1 目的

成人に達した方の新しい門出を祝福するとともに、成人としての誇りと自覚を促し、明日の甲府市の発展のための若き原動力となるよう、社会的連帯感の高揚及び資質の向上を図ることを目的とする。

2 対象

平成13年4月2日から平成14年4月1日までに生まれた方で、次のいずれかに該当する方。

- ①甲府市に住民登録がある方
- ②甲府市「成人の日のつどい」への参加を希望する方
(甲府市に関わりがあるが、就職・進学等により市外在住の方)

※甲府市新成人者数(外国人住民を含む) 令和3年9月30日現在
合計 2,024人(男 1,074人 女 950人)

3 主催

甲府市・甲府市教育委員会

4 実施日時

令和4年1月9日(日)

【第1部】

受付	午前10時00分～
式典	午前11時00分～午前11時30分(予定)
記念事業	午前11時30分～正午(予定)
対象	次の学校を卒業した方 東中学校、西中学校、北東中学校、北中学校、北西中学校、 富竹中学校、山梨学院中学校、駿台甲府中学校

【第2部】

受付	午後1時30分～
式典	午後2時30分～午後3時00分(予定)
記念事業	午後3時00分～午後3時30分(予定)
対象	次の学校を卒業した方 城南中学校、南中学校、上条中学校、南西中学校、 笛南中学校、山梨英和中学校、山梨大学教育学部附属中学校、 その他中学校

※来場者の新型コロナウイルス感染症予防対策を最優先に考慮する中で、
卒業した中学校ごとに2部制で開催する。

5 実施場所

甲府市総合市民会館 山の都アリーナ

6 出席者

- 《来賓招待者》
- ・甲府市選出県議会議員
 - ・甲府市議会議員

報告：第16号

- ・各地区自治会連合会会長
- ・青少年育成甲府市民会議会長
- ・甲府市社会教育委員

《主催者側》

- ・市長
- ・副市長
- ・代表監査委員
- ・選挙管理委員会委員長
- ・教育長
- ・教育委員
- ・市立学校長
- ・市部局長

7 次第

- ①開式のことば
甲府市教育委員会 教育長 數野 保秋
- ②国歌
- ③市民憲章
新成人代表 1名
- ④新成人に贈ることば
甲府市長 樋口 雄一
- ⑤励ましのことば
甲府市議会議長 廣瀬 集一
- ⑥来賓紹介
- ⑦新成人メッセージ朗読
新成人代表（男女各1名）
- ⑧甲府市の歌
- ⑨閉式のことば
甲府市教育委員会 教育長職務代理者 市川 修策

8 新型コロナウイルス感染症の感染予防策について

消毒の徹底やマスクの着用、入館時の検温、三密の回避など、感染対策を行う。

9 今後の主なスケジュール

- | | | |
|-----|----|------------------|
| 11月 | 下旬 | 12月号広報掲載
動員依頼 |
| 12月 | 3日 | 案内状発送 |
| | 中旬 | 動員者説明会、司会者打合せ |
| 1月 | 7日 | 会場準備 |
| | 8日 | リハーサル |
| | 9日 | 式典 |

施設名	甲府市総合市民会館	応募団体数	1 団体						
候補者名	UTY・ALPS・甲府ビルサービス共同事業体	指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで						
審査結果	項目	配点	合格基準点	得点					
				A (候補者)					
	施設の管理運営の方針等の総合的な事項	10	/	7					
	公の施設かつ複合施設であることを念頭においた運営、利用者の平等な利用の確保及びサービスの向上	40		27.4					
	施設の効用の最大限の発揮及び適切な維持管理に係る経費の縮減	25		15.4					
	施設の管理を安定して行うために必要な人的能力及び経理的基盤を有していること	10		7.6					
	自主事業の計画	15		11.4					
計	100	60		68.8					
選定経過及び理由	<p>1 選定経過 第1回：令和3年8月18日 概要：募集要項、仕様書、選定方法及び選定基準の審査・承認（書面表決） 第2回：令和3年10月18日 概要：書類審査、プレゼンテーション及び質疑応答</p> <p>2 選定理由 選定委員会において審査及び評価を行った。 Aの得点は合格基準点を越えているため、指定管理者の候補者に選定するものである。</p>								